

MITSUBISHI

三菱デジタルレコーダー

形名

DX-TL5000

取扱説明書

ユーザー向け



Digital Recorder

このたびは三菱デジタルレコーダーをお買い上げいただきありがとうございました。

- ・ ご使用になる前に、正しく安全にお使いいただくため、この取扱説明書を必ずお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保存し、必要なときにお読みください。
- ・ 保証書は必ず「お買い上げ日」「販売店名」などの記入をお確かめの上、販売店からお受取りください。

製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際は、製品本体と保証書の製造番号をお確かめください。記録したデータを個人的に楽しむほかは、著作権上、権利者に無断で使用できません。

デジタルレコーダーを正しく安全にご使用いただくために、ご使用になる前に必ず3～8ページをお読みください。

この取扱説明書は、再生紙を使用しています。

はじめに

基本操作

基本機能

通信

故障かな？

もくじ

もくじ	2
安全のために必ずお守りください	3-8
ご注意	8
ソフトウェア使用許諾契約書	9
メニューの設定方法	10-13
メニューの設定	10-13
マウスを使ってメニューを設定する方法	10
本機のボタンを使ってメニューを設定する方法	10
メニュー画面を表示する	11
メニュー画面を閉じる	11
項目を選択する	11
数値を入力する	12
パラメータを設定する	12
メニュー画面中の記号	13
日付と時刻の調整をする	14
日付と時刻の調整をする	14
マルチプレクサ機能を使う	15
マルチプレクサ機能	15
マルチプレクサボタン	15
カスケード機能を使う	16
カスケード	16
カメラを制御する	17
メニューを使ってカメラを制御する	17
本体ボタンを使ってカメラを制御する	17
基本的なマニュアル記録をする	18
基本的なマニュアル記録のしかた	18
通常記録のための記録コマ数と 記録画質を設定する	18
基本的な再生をする	19
基本的な再生のしかた	19
基本的な検索をする	20,21
基本的なサーチのしかた	20
日付と時刻を指定して検索する	20
アラームリストから検索をする	21
記録した映像をコピーする	22-25
コピー	22,23
コピー 1 デバイスに記録映像をコピーする /コピー 1 デバイスを設定する	22
コピー 2 デバイスに記録映像をコピーする /コピー 2 デバイスを設定する	22,23
本機からビデオテープにコピーする	23

再生ソフトウェア	24,25
動作環境	24
アプリケーションの起動	24
操作パネル	24
ファイルメニュー	25
検索メニュー	25
操作メニュー	25
ブックマークメニュー	25
表示メニュー	25
グルーピングメニュー	25
右クリックで表示されるメニュー	25

Webブラウザによる通信 26-33

Web ブラウザによる通信	26
パーソナルコンピュータの動作環境	26
接続について	26
ログイン	26,27
メインメニュー	27-33
ライブ	28
再生	29
時刻検索	29
アラームリスト検索	29
画像検索	29
設定メニュー	30-33
利用者登録	30,31
レコーダータイトルとカメラタイトルの設定	32
メール設定	32
NAS 設定	33
時計設定	33
ログアウト	33
ログインユーザーを変更	33

「故障かな」と思う前に 34,35



警告表示とCALL OUT信号の出力 36,37

この取扱説明書の読み方








- マークの見かた
 - ➡ (操作上、参考にしてください)
操作上、参考にしていただきたい情報を記載しています。
 - ❗ (お気をつけください)
操作上、気をつけていただきたい情報を記載しています。
- 見たい項目の探しかた
「もくじ」または右ページのインデックスをごらんください。
- 困ったときは
「故障かな」と思う前に (34、35ページ) を読み適切な処置をお取りください。

安全のために必ずお守りください

■ 誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

 警告	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性があるもの	 注意	誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの
---	---	---	-------------------------------------

■ 図記号の意味は次のとおりです。

 絶対に行わないでください	 絶対に分解・修理はしないでください	 絶対に触れないでください
 絶対に水にぬらさないでください	 絶対にぬれた手で触れないでください	
 必ず指示に従い、行ってください	 必ず電源プラグをコンセントから抜いてください	

警告

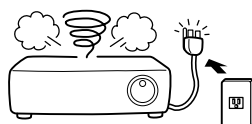
万一異常が発生したときは、電源プラグをすぐ抜く!!

異常のまま使用すると、火災や感電の原因となります。すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店に修理をご依頼ください。



プラグを抜く

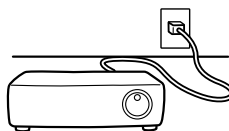
煙が出ている、変なおいがするなど、異常なときは、電源プラグをすぐ抜く!!



使用禁止

異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。すぐに電源を切ったあと電源プラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理をご依頼ください。

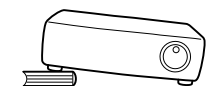
電源プラグを、コンセントからすぐに抜くことができる場所に設置する



電源プラグがすぐ抜ける場所

異常発生時、電源プラグをコンセントからすぐに抜くことができないと、火災の原因となります。

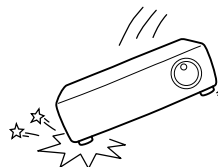
不安定な場所には置かない



禁止

ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、落ちたり倒れたりして、けがの原因となります。

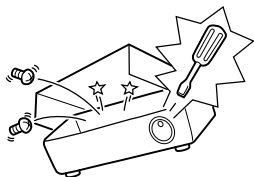
落としたり、キャビネットを破損した場合は使わない



使用禁止

火災や感電の原因となります。

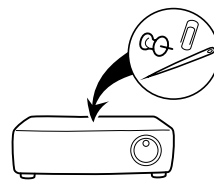
キャビネット(天板)をはずしたり、改造しない



分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、さわると感電の原因となります。また、改造すると、ショートや発熱により、火災や感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は、販売店にご依頼ください。

異物を入れない



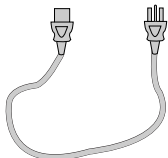
禁止

トレイ開閉口、通風孔や排気口から金属類や燃えやすいものなどが入ると、火災や感電の原因となります。

安全のために必ずお守りください(つづき)

警告

付属の電源コードを使用する

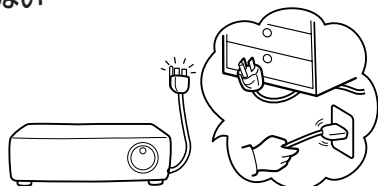


付属の電源コード

これ以外の電源コードを使うと、外部からの耐ノイズ入力性能が低下したり、火災の原因となります。アース端子は安全のための接地アースです。コンセントにアース端子がない場合は、アース工事を販売店にご依頼ください(有料)。電源プラグのアース端子をガス管・水道管・避雷針などへ絶対に取り付けしないでください。

電源コードを傷つけない

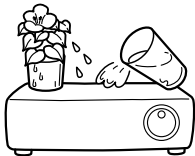
- 重いものをのせない
- 無理に曲げない
- 束ねない
- 引っ張らない
- 加熱しない



禁止

コードに傷がつくと、火災や感電、故障の原因となります。電源コードの芯線が露出したり断線するなど、コードが傷んだときは、すぐに販売店に修理をご依頼ください。

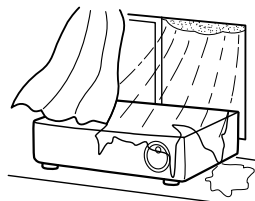
花瓶やコップ、植木鉢、小さな金属物などを上に置かない



水ぬれ禁止

内部に水や異物が入ると、火災や感電の原因となります。

水でぬらさない

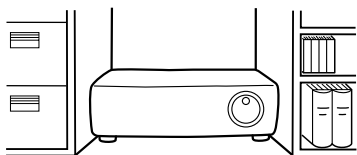


水ぬれ禁止

火災や感電の原因となります。雨天、降雪中、水辺、窓辺での使用は、特にご注意ください。

通風口、排気口をふさがない

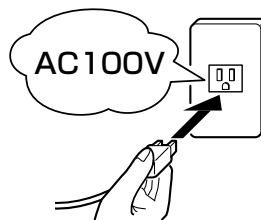
- 風通しの悪い狭い場所に置かない
- じゅうたんや布団の上に置かない
- テーブルクロスなどをかけない



禁止

通風口、排気口をふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となります。

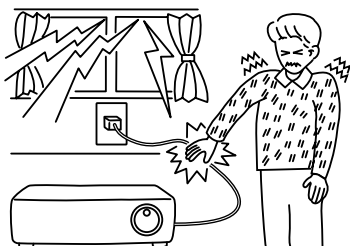
正しい電源電圧(交流100V)で使う、また配線器具の定格電流をこえない



交流100V

交流100V以外の電圧で使用した場合や配線器具の定格電流をこえて使用すると、火災や感電の原因となります。また、たこ足配線はしないでください。

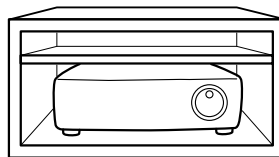
雷が鳴り出したら本体および電源プラグには触れない



接触禁止

感電の原因となります。

まわりに15cm以上すきまをあける(特に後面)



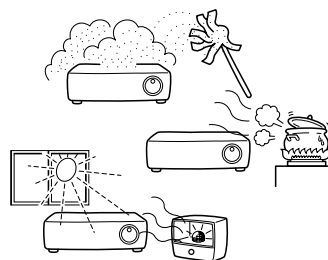
すきまをあける

内部に熱がこもり、火災の原因となります。放熱をよくするために、他の機器から離して設置してください。

⚠ 注意

設置時は、次のような場所には置かない

- 湿気やほこりの多い場所
- 直射日光の当たる場所
- 閉めきった自動車内など、高温になる場所
- 製氷倉庫など、低温になる場所
- 自動車内など、振動が多い場所
- 温泉地など、硫化水素などのガスが発生する場所
- 海岸近くなど、塩分の多い場所
- 油煙や湯気が当たる場所
- 熱器具の近く



設置禁止

このような場所に置くと、ショートや発熱、電源コードの被膜が溶ける、記録ドライブ等の劣化を早めるなどにより、火災や感電、故障、変形の原因となることがあります。

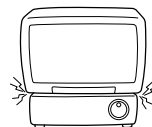
接続したまま本機を
移動させない



禁止

電源コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。電源が入った状態で移動させると内蔵HDDを破損させる恐れがあります。電源コードや接続コードをはずしたことを確認し、1分以上たったあとで移動させてください。また、ディスクを取り出し、トレイ開閉口は閉じておいてください。

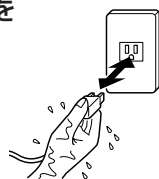
本機の上に重いものを置かない
本機の上へのらない
トレイ開閉口の前に物を置かない



禁止

バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがや故障の原因となることがあります。

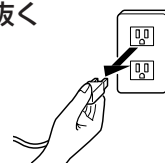
ぬれた手で電源プラグを
抜き差ししない



ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

電源プラグを持って抜く



プラグを持つ

電源コードを引っ張ると、コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。

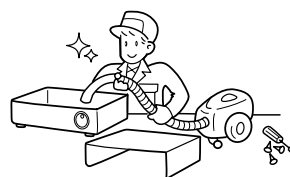
電源プラグのほこりなどは定期的に取り、差し込みの
具合を点検する



ほこりを取る

ほこりなどがついたり、コンセントへの差し込みが不完全な場合は、火災や感電の原因となることがあります。1年に1回はプラグとコンセントの定期的な清掃をし、最後までしっかり差し込まれているか点検してください。

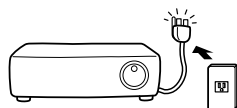
5年に一度は内部の掃除を依頼する



内部掃除

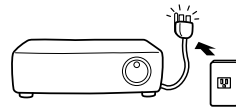
内部にほこりがたまったまま長い間掃除をしないと、火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うのが効果的です。内部掃除費用については、販売店にご相談ください。

長時間使用しないときは、ディスクを取り出して、
電源プラグをコンセントから抜いておく



プラグを抜く

お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜いて
行う



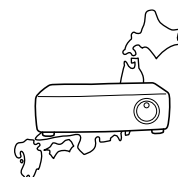
プラグを抜く

感電の原因となることがあります。

本機は日本国内専用です

放送方式、電源電圧の異なる海外では使用できません。また、海外でのアフターサービスもできません。

This unit is designed for use in Japan only and can not be used in any other country. No servicing is available outside of Japan.



日本専用

安全のために必ずお守りください(つづき)

使用上のお願い

ハードディスク(HDD)について

- ・本機は、精密機器であるハードディスクを搭載しております。本機取扱いには、十分ご注意ください。
- ・本機に振動や衝撃を与えないでください。特に通電中やハードディスクへのアクセス中は、故障の原因となりますので十分ご注意ください。
- ・記録・再生の動作中または通電中に、電源プラグを抜かないでください。
- ・本機は、記録運用中にハードディスク等に軽微な障害が発生した場合、自動復帰にて記録運用を継続するシステムを搭載しておりますが、故障の早期発見のため、1年ごとに点検を依頼されることをおすすめします。
- ・本体の電源を切ってから少なくとも1分間は移動させないでください。

設置場所と取扱い

- ・はじめてご使用になるときは、本機内蔵の停電補償回路を動作させるために、48時間以上連続通電を行って充電してください。
- ・使用電源は、消費電力の大きな機器(コピー機、空調機器など)と同じコンセントからとらないでください。
- ・本機は水平で安定した場所に置いて使用してください。不安定な場所に置いて使用すると、DVD/CDディスクがはずれるなどの故障の原因となります。
- ・他の機器とあまり近づけないでください。機器がお互いに悪影響を与えて、映像や音声が乱れる可能性があります。
- ・本機とモニターを上下に重ねて置くと、映像が乱れたり、DVD/CDディスクが出ないなどの故障の原因となります。
- ・強い磁気をもっているものを近づけないでください。映像に悪影響を与えたり、記録が損なわれることがあります。
- ・殺虫剤など揮発性のものをかけたり、ゴムやビニール製品を長時間接触させないでください。変質したり、塗料がはげるなどの原因となります。
- ・ワックスのかかった床などに直接置くと、本機底面のすべり止め用ゴムと床材の密着性が上がり、床材のはがれや着色の原因となることがあります。
- ・この製品は、クラスA情報技術装置です。住宅環境で使用する場合、電波妨害を発生させる恐れがあります。その際、この製品の利用者は、適切な手段を講ずることが必要とされることがあります。
- ・ハードディスクと冷却用ファンは消耗品です。周囲温度25℃でのご使用時に、ハードディスク、冷却用ファンともに3万時間を目安に交換してください。(ただし、この時間は、あくまでも目安であり、部品を保証するものではありません。システムメニュー→システム情報→<使用積算時間を表示する>の「使用時間」を、点検の目安にすると便利です。)
- ・許容周囲温度を必ずお守りください。低温でのご使用になる場合は、10分以上通電を行ったのち、ご使用ください。
- ・トレイ開閉口に手を入れないでください。手をはさまれ、けがの原因となることがあります。万一、手をはさまれたときは、無理に引き抜かず、電源を切ったあと電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。

設置場所の移動

- ・移動させるときは、必ずMAINスイッチをOFFにし、完全に停止したのを確認したあと、電源プラグをコンセントから抜いてください。通電中に過度な衝撃を与えられると、機器内部の電子部品やハードディスクをいためることがあります。特に、電源インジケータまたはアクセスインジケータの点滅中は、ご注意ください。
- ・内部に衝撃を与えないように緩衝材などで包んでください。

お手入れ

- ・キャビネットの汚れは、柔らかい布で軽くふき取ってください。
- ・汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤にひたした布をよくしぼって汚れをふき取り、乾いた布で仕上げてください。
- ・化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。
- ・ベンジンやシンナーなどの溶剤は、使わないでください。変質したり、塗料がはげるなどの原因となります。

大切な記録の場合

- ・必ず事前に記録を行い、正常に記録されていることを確認してください。
- ・本機を使用中、本体もしくは接続機器等の不具合により、記録されなかったり正常に再生できなくなった場合、その内容の補償についてはご容赦ください。
- ・万一の故障や事故に備えて、大切な記録の場合は定期的にバックアップをとられることをおすすめします。

著作権について

- ・本機はデジタル方式で記録を行うため、著作権を有する映像などを記録するには注意が必要です。

本機を使用した監視システム構築上の注意

- ・本機は外部端子、RS-232C端子、LAN端子により外部機器から制御が可能です。また外部端子、RS422/485、RS-232C端子により外部機器の制御も可能です。これらの機能により、高度なセキュリティシステムにも柔軟に対応可能ですが、本機の設定内容や外部機器との接続や組合せによっては、本機または外部機器の誤動作が原因となり、監視システム全体に影響を及ぼす恐れがあります。
- ・本機を使用して監視システムを構築される際には、事前に他の機器との接続や組合せによる動作確認を行った上で、ご使用になることをおすすめします。
- ・大切な記録の場合は、必ず定期的にコピー/バックアップをとられることをおすすめします。
- ・万一、本機の不具合により発生した監視システムの動作エラー、記録データの消失、その他のあらゆる損失について、当社はその補償や一切の責任を負いかねますので、あらかじめご容赦ください。
- ・本機の発報機能を、重大な判断に使用したり人命に関わる用途などに使用しないでください。

ネットワークについて

- ・ネットワークの設定については、必ずネットワーク管理者の確認を事前にとられることをおすすめします。

記録時間と製品保証

- ・連続記録可能時間とメニュー画面に表示される見積り時間は、機能動作上の連続記録可能時間であり、製品保証期間ではありません。また、使用部品の動作信頼性を保証する期間でもありません。

動き検知機能について

- ・本機に内蔵されている動き検知機能は、入力される映像信号の状態などにより、誤動作する場合があります。本機の検出機能を用いて発報するシステムなどに接続している場合は、誤動作にご注意ください。また、誤動作が問題となる場合は、別のセンサーを取り付けて後面部のアラーム入力端子を使用してください。

DVD/CDディスクについて

- ・ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しないでください。飛び散ってけがの原因となることがあります。
- ・再生面に触れないように持ってください。
- ・ディスクが結露している場合は、ディスクの表面の水滴をよくふき取ってからお使いください。
- ・指紋やほこりなどによるディスクの汚れは、画質や音質の低下の原因となります。柔らかい布で、DVD/CDディスクの中心から外側に向かって軽くふき取ってください。
- ・汚れがひどいときは、柔らかい布を水にひたしてよくしぼり、汚れを軽くふき取り、乾いた布で仕上げてください。
- ・ベンジンやシンナーなどの溶剤、レコードクリーナー、静電気防止剤などは使わないでください。ディスクを傷める原因となります。
- ・次のようなディスクは使わないでください。ディスク自体の破損や本体の故障の原因となります。
 - ・紙やシールなどを貼ったり、傷がついたディスク
 - ・ラベルがはがれていたり、のりがはみ出ているディスク
 - ・ひび割れ、変形、接着剤などで補修したディスク
- ・使用後は、所定のケースに入れて保管してください。次のような場所を避けて、保管してください。
 - ・直射日光の当たるところ
 - ・ちりやほこりの多いところ
 - ・高温や多湿のところ
- ・市販の映画ソフトや、家庭で記録された映像は再生できません。本機で記録したデータのみ再生できます。
- ・パーソナルコンピューターで使用したディスクや、コピーに失敗したり停電でコピーが中断されたディスクは、誤動作の原因になりますので、使用しないでください。
- ・本機でDVDやCDにコピーしたデータを、付属のソフトウェアを使用してパーソナルコンピューターで再生することができますが、すべてのパーソナルコンピューターまたはDVD/CDドライブでの再生を保証するものではありません。

録画/再生用レンズ(レーザーピックアップ)のお手入れ

- ・録画/再生用レンズにごみやほこりがつくと、映像の乱れや音飛びなどが発生し、正常に録画や再生ができなくなります。清掃は販売店にご相談ください。
- ・市販のレンズクリーニングディスクは、レンズを破損する恐れがあるため、使用しないでください。

付属の電源コードについて

- ・付属の電源コードは、本製品専用です。決して他の製品には使用しないでください。

安全のために必ずお守りください(つづき)

免責について

- ・弊社は如何なる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。
- ① お客様ならびに工事業者様により本商品の分解、修理または改造が行われた場合
- ② お客様ならびに工事業者様の誤使用や不注意により生じた本商品の故障、破損あるいは損害
- ③ 本商品の故障・不具合以外の理由または原因により生じた、映像が表示・記録等できないことによる不便・損害・被害
- ④ 第三者が製造した機器等との組み合わせによる不具合、あるいはその結果により被る不便・損害・被害
- ⑤ 内蔵のHDDをお客様自身ならびに工事業者様が交換した場合の、本商品の故障ならびに映像データの消滅による不便・損害・被害ならびにクレーム等
- ⑥ 地震・台風等を含む自然災害による本商品の故障ならびに映像が表示・記録等できないことによる不便・損害・被害
- ⑦ 内蔵のHDDの振動や衝撃、または温度など設置場所の環境に起因する故障ならびに映像データの消滅による不便・損害・被害ならびにクレーム等
- ⑧ お客様により監視もしくは記録された映像が、理由の如何を問わず公となりまたは監視目的外に使用されたことによる、プライバシー侵害等を理由とする賠償請求やクレーム等

外付け機器について

- ・本機は、さまざまな外付けHDDを接続し、メモリー拡張やコピー機器として使用することができますが、本機を使用して高レートで記録・再生・コピーを行うと、接続する機器によっては、データ転送や応答が遅いことにより、記録や再生での画像抜けなどが発生することがあります。実際の運用前に必ず確認してご使用いただくようお願いします。
- ・本機のバスパワーを使用した外部機器の電源制御機能は使用しないでください。
- ・ご使用になりたい外付け機器が運用方法に適さない場合があります。販売店にお問い合わせいただくことをおすすめします。

NASについて

- ・本機では、NFSv3*に準拠したNAS*を使用することができますが、市場にあるすべてのNFSv3に準拠したNASとの接続を保証するものではありません。
- データ転送速度の目安は、約1~2Mbpsとなっておりますが、本体の動作状況、NASサーバー性能やネットワーク性能に大きく左右されるため、運用される前にあらかじめ十分な事前確認をされることを強くお勧めいたします。
- 尚、NASサーバー側の設定、ネットワークの設定につきましては、NASサーバー管理者、ネットワーク管理者にご相談ください。
- また、ご使用の際には、NAS本体の取扱説明書をご覧ください。
- 最新のNASの動作確認状況につきましては、販売店にお問い合わせください。

NAS* : Network Attached Storage

NFSv3* : Network File System version 3

ご注意

このたびは、三菱デジタルレコーダー DX-TL5000(以下、本機という)をお買い上げいただきありがとうございます。本機のご使用を開始される前に必ず、本機に含まれるソフトウェア(以下、許諾ソフトウェアという)につきまして、次ページの「ソフトウェア使用許諾契約書」をお読みください。**お客様による本機のご使用開始をもって、ソフトウェア使用許諾契約書にご同意いただいたものとします。**

なお、本機には GNU General Public License または GNU Lesser General Public License の適用を受けるソフトウェアが含まれております。かかるソフトウェアは「許諾ソフトウェア」には含まれず、ソフトウェア使用許諾契約書の対象外ですのでご注意ください。GNU General Public License または GNU Lesser General Public License が適用されるソフトウェアの使用許諾条件については、「GNU GPL/LGPL適用ソフトウェアに関するお知らせ」^{注)} をご覧ください。

また、同様に、本機には「Apache」ならびに「OpenSSL(「Original SSLeay」ライブラリを含む)」が含まれていますが、かかるソフトウェアも「許諾ソフトウェア」には含まれず、ソフトウェア使用許諾契約書の対象外ですのでご注意ください。当該ソフトウェアの使用許諾条件については、「Apacheソフトウェアに関するお知らせ」^{注)} ならびに、「OpenSSLソフトウェアに関するお知らせ」^{注)} をご覧ください。

さらに、本機に含まれる「Berkeley Database」、「agetty」、「expat」ならびに「zlib」の各ソフトウェアは、その他のオープンソースソフトウェアであり、「許諾ソフトウェア」には含まれず、ソフトウェア使用許諾契約書の対象外ですのでご注意ください。当該ソフトウェアの使用許諾条件については、「その他のオープンソースソフトウェアに関するお知らせ」^{注)} をご覧ください。

注) 「GNU GPL/LGPL適用ソフトウェアに関するお知らせ」、「Apacheソフトウェアに関するお知らせ」、「OpenSSLソフトウェアに関するお知らせ」ならびに「その他のオープンソースソフトウェアに関するお知らせ」は、同梱のDX-TL5000 Accessory CDのフォルダ「OpenSoft_License」内に、電子文書(電子ファイル notice_GPL_LGPL_ja.pdf、notice_Apache_ja.pdf、notice_OpenSSL_ja.pdf、notice_other_ja.pdf)として保存しておりますので、こちらをご覧ください。

ソフトウェア使用許諾契約書

本契約は、お客様（以下、使用者という）と弊社（以下、ライセンサーという）との間での許諾ソフトウェアの使用権の許諾に関して合意するものです。

第1条（総則）

ライセンサーは、許諾ソフトウェアの非独占かつ譲渡不能な使用権を使用者に許諾します。

第2条（使用権）

1. 契約によって生ずる許諾ソフトウェアの使用権とは、本機上においてのみ使用者が許諾ソフトウェアを使用する権利をいいます。使用者は、かかる許諾ソフトウェアの使用に必要な範囲において、本機の取扱説明書の許諾ソフトウェアに関連する部分を使用できるものとします。
2. 使用者は、許諾ソフトウェアおよび関連書類の一部もしくは全部を複製、複写もしくは修正、追加等の改変をすることができません。
3. 使用者は、許諾ソフトウェアを取扱説明書に記載の使用方法に沿って使用するものとします。

第3条（許諾条件）

1. 使用者は、前条に規定する使用権を第三者に譲渡することはできないものとします。
2. 使用者は、許諾ソフトウェアに関して逆アセンブル、逆コンパイル等のソースコード解析作業を行ってはならないものとします。

第4条（許諾ソフトウェアの権利）

許諾ソフトウェアおよびその関連書類に関する著作権等一切の権利は、ライセンサーまたはライセンサーが許諾ソフトウェアの再許諾権を許諾された原権利者（以下原権利者として）に帰属するものとし、使用者は許諾ソフトウェアおよびその関連書類に関して本契約に基づき許諾された使用権以外の権利を有しないものとします。

第5条（ライセンサーおよび原権利者の免責）

ライセンサーおよび原権利者は、許諾ソフトウェアについて何等の保証を行うものではなく、使用者が本契約に基づき許諾された使用権を行使することにより生じた使用者もしくは第三者の損害に関していかなる責任も負わないものとします。但し、これを制限する別途法律の定めがある場合はこの限りではありません。

第6条（第三者に対する責任）

使用者が許諾ソフトウェアを使用することにより、第三者との間でプライバシー、著作権、特許権その他の知的財産権等で問題が生じたときは、使用者自身が自らの責任で解決するものとし、ライセンサーは一切の責任を負わないものとします。

第7条（秘密保持）

使用者は、本契約により提供される許諾ソフトウェア、その関連書類等の情報および本契約の内容のうち公然と知られていないものについて秘密を保持するものとし、ライセンサーの許諾を得ることなく第三者に開示または漏洩しないものとします。

第8条（契約の解除）

ライセンサーは、使用者において次の各号の一に該当する事由があるときは、直ちに本契約を解除し、またそれによって蒙った損害の賠償を使用者に対し請求できるものとします。

- (1) 本契約に定める条項に違反したとき
- (2) 差押、仮差押、仮処分その他強制執行の申立を受けたとき

第9条（許諾ソフトウェアの廃棄）

前条の規定により本契約が終了した場合、使用者は契約の終了した日から2週間以内に許諾ソフトウェア、関連書類および複製物を廃棄するものとし、その旨を証明する文書をライセンサーに差し入れするものとします。

第10条（許諾ソフトウェアの更新）

使用者が、ライセンサーが提供または販売する更新用CDなどの手段により許諾ソフトウェアの更新を行う場合、更新後のソフトウェアについても本契約が適用されるものとします。ただし、ライセンサーより別の契約条件が提示される場合はこの限りではありません。

第11条（その他）

1. 本契約の一部が法律によって無効となった場合でも、当該条項以外は有効に存続するものとします。
2. 本契約に定めなき事項もしくは本契約の解釈に疑義を生じた場合は、ライセンサー、使用者は誠意をもって協議し、解決するものとします。

以上

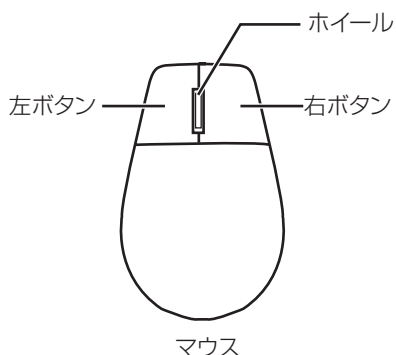
メニューの設定方法

■ メニューの設定

本機の動作条件は、出力Aモニターメニュー画面で設定することができます。メニューは、本機前面のボタンまたはマウスを使用することによって選択、設定できます。メニュー画面中の1から16の数字(カメラ番号ボタン)とAからEのアルファベット(分割ボタン)が本機前面のボタンの名前を表しています。

❗ 出力Bが選択されているときは、マウスのカーソルは表示されますが、メニューは表示されず、設定できません。メニューは、出力Aが選択されているときのみ設定することができます。

◆ マウスを使ってメニューを設定する方法

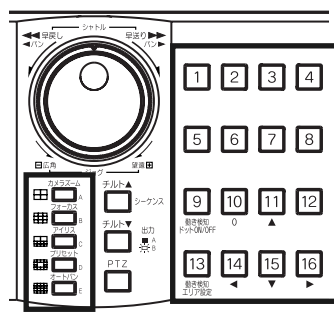
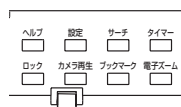


❗ マウスは、図のような左右ボタンを備えた標準的なUSBマウスをご使用ください。マウスによってはご使用にされない場合があります。ご注意ください。

1 マウスの右ボタンと左ボタンを使って設定する。

- ・メニューを開いたり、設定したい項目を選択するときは、左ボタンを使います。
- ・動き検知機能の範囲を設定するときは、右ボタンを使います。
- ・本機では、マウスのホイールは使用できません。

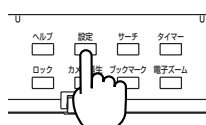
◆ 本機のボタンを使ってメニューを設定する方法



1 設定ボタン、カメラ番号ボタン、分割ボタン(A～E)を使って設定する。

- ・メニュー画面を開くときは、設定ボタンを押します。
- ・各メニューを開いたり、設定したい項目を選択するときは、カメラ番号ボタン(1～16)と分割ボタン(A～E)を押します。

◆ メニュー画面を表示する



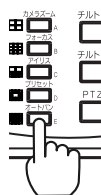
1 設定ボタンを押すか、マウスを左クリックしてメニューを表示する。

- ・ <ユーザーメニュー>が開きます。
- ・ 他のメニューを開くときは、Dボタンを押すか、「次へ▶」の上で左クリックします。

➡ マウスを使うときは、下記の範囲をクリックしてください。



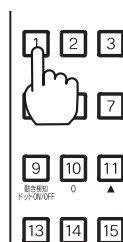
◆ メニュー画面を閉じる



1 Eボタンを押すか、「閉じる」の上でマウスを左クリックする。

- ❗ 本機の設定ボタンを押しても、メニューを閉じることはできません。

◆ 項目を選択する

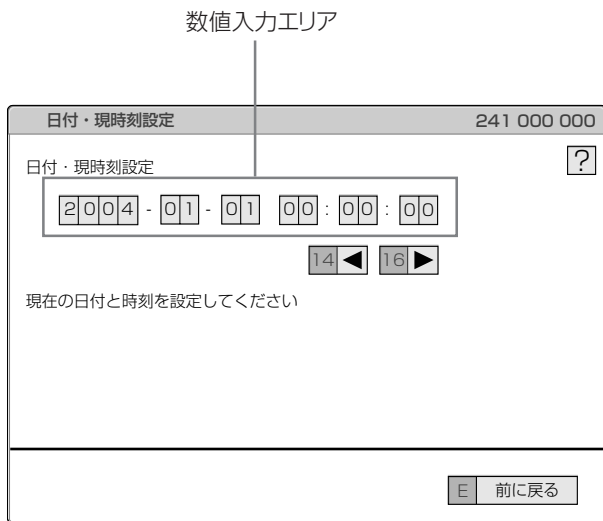


1 設定したい項目の番号のボタンを押す。または、設定したい項目の上でマウスを左クリックする。

- ・ 選択されたメニューが開きます。
- ・ 項目を選択してその番号のボタンを押します。または、設定したい項目の上でマウスを左クリックします。

メニューの設定方法(つづき)

◆ 数値を入力する



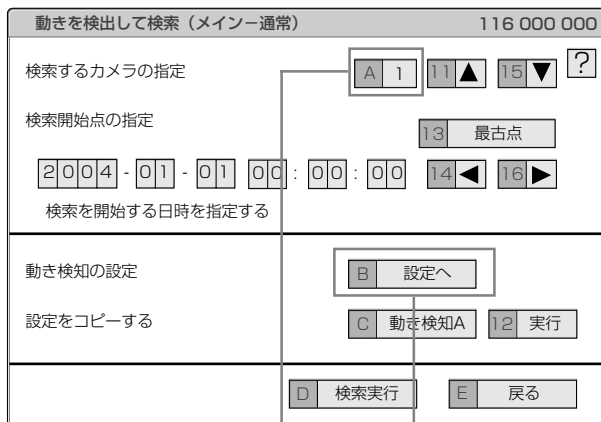
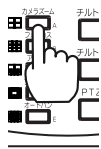
【本機のボタンを使って入力するとき】

- 1 画面上に赤く表示されている数字が、入力可能な数字です。カメラ番号ボタンの0から9を押して、入力する。
- 2 次の入力エリアに移動するときは、16ボタンを押す。
 - ・ 前のエリアに戻るときは、14ボタンを押します。

【マウスを使って入力するとき】

- 1 画面上に赤く表示されている数字の上で、表示したい数字が現れるまで左クリックする。
 - ・ エリアを移動したいときは、移動したいエリアの上で左クリックするか、◀、▶を左クリックします。

◆ パラメータを設定する

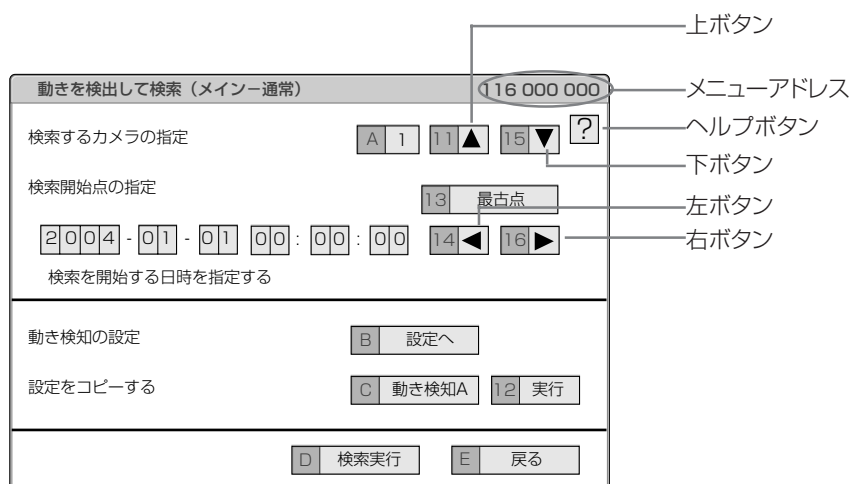


- 1 設定したい項目が現れるまでAボタンを押す。またはマウスを左クリックする。
- 2 項目によっては、さらに詳細な設定が必要です。この場合、「B(設定へ)」のような項目が表示されます。必要に応じてBボタンを押すか、マウスを「設定へ」の上で左クリックして詳細設定を行ってください。

❗ メニューを閉じるときは、Eボタンを押すか、マウスを「戻る」または「閉じる」の上で左クリックしてください。

❗ 本機の設定ボタンを押してもメニューを閉じることはできません。

◆ メニュー画面中の記号



メニュー画面中にはいくつかの記号が表示されます。意味は以下の通りです。

- ? (ヘルプ) ヘルプボタンを押すか、この記号の上で左クリックすると、メニューの詳細情報が表示されます。
- ◀ (左) 14ボタンを押すか、この記号の上で左クリックすると、設定する項目が左に移動します。
- ▶ (右) 16ボタンを押すか、この記号の上で左クリックすると、設定する項目が右に移動します。
- ▲ (上) 11ボタンを押すか、この記号の上で左クリックすると、設定値が大きくなります。
- ▼ (下) 15ボタンを押すか、この記号の上で左クリックすると、設定値が小さくなります。

メニューアドレス 各メニューにはメニューアドレスがついています。メニューアドレスの番号に対応した番号を本機前面部のボタンを押すことによって、メニューを開くことができます。

例えば、<動きを検出して検索する>メニューを開くには、設定ボタンを押してからカメラ番号ボタンを1、6の順に押します。

日付と時刻の調整をする

■ 日付と時刻の調整をする(設定メニュー→システム設定→日付と時刻の調整をする)

日付、現在時刻を調整するときに使用します。

- ❗ 記録を始める前に、あらかじめ日付と現在時刻を正確に合わせてください。
- ❗ 本機は、時計が動いていなければ正常に記録や再生ができません。運用前に、必ず時計が動いていることを確認してください。



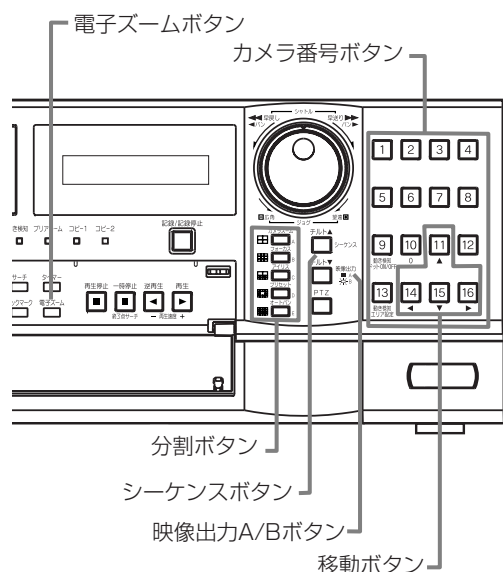
1 現在の年、月、日、時、分、秒を設定する。

- ➡ 時刻は24時間表示になっています。
- ➡ 本機は4桁年号表示を導入しています。表示可能範囲は2001年1月1日から2037年12月31日までの37年カレンダーです。うるう年の自動計算機能も内蔵しています。2037年12月31日を過ぎると、再び2001年表示に戻ります。

マルチプレクサ機能を使う

■ マルチプレクサ機能

本機前面部に配置されているボタンを使って、マルチプレクサ機能を操作することができます。



電子ズームボタン

1画表示中に拡大ボタンを押すと、1倍画面が表示され、拡大中心点(X)が表示されます。さらに押すと2倍、4倍と拡大表示されます。移動ボタンを押すことにより、中心点を、上下左右へ移動させることができます。

拡大ボタンを押すことにより、カメラ番号ボタン11、14、15、16の機能が移動ボタンに切り換わります。

◆ マルチプレクサボタン

カメラ番号ボタン(1～16)

本機後面部のCAMERA IN端子1～16に接続されたカメラの映像を、画面に1画表示します。

- 🕒 カメラ番号ボタンを押すことにより、接続されているカメラが記録運用に設定されていなくても、映像を表示することができます。

分割ボタン

以下の順番に、分割画面を表示します。

4分割ボタン(田) : 4分割a→4分割b→4分割c→4分割d→4分割a→…

9分割ボタン(田田) : 9分割a→9分割b→9分割a→…

10分割ボタン(田田田) : 10分割a→10分割b→10分割a→…

13分割ボタン(田田田田) : 13分割a→13分割b→13分割a→…

16分割ボタン(田田田田田) : 16分割

シーケンスボタン

分割画面または1画表示のシーケンシャル画面を表示します。詳細設定は、<マルチプレクサの設定をする>(設定メニュー→システム設定→マルチプレクサの設定をする)で行います。再生中は、シーケンシャル表示はできません。

- 🕒 シーケンシャル表示は、シーケンスボタンをもう一度押すか、異なったタイプの分割画面または1画表示を表示させると解除されます。
- 🕒 前面部の映像出力A/Bボタンを押すと、マルチプレクサ出力が切り換わります。出力Aが選択されると、ボタンが消灯します。出力Bを選択すると、ボタンが点灯し、カメラ番号ボタン、分割ボタンとシーケンスボタンはOUTPUT B端子に接続されたモニター画面の操作に使うことができます。もう一度映像出力A/Bボタンを押すと、マルチプレクサ出力は出力Aに切り換わります。

カスケード機能を使う

■ カスケード

接続した最大16台のDX-TL5000の映像・音声を、ひとつのモニターで監視することができます。接続されたすべてのDX-TL5000のマルチプレクサ機能と接続されたすべてのカメラのPTZ操作が、マスターレコーダーから行えます。

- ❗ カスケード機能を使用する前に、以下のことを確認してください。
 - レコーダーが、RS-485端子で接続されている。映像・音声がかスケード接続されている。
 - マスターレコーダーのID番号が「マスタID:01」に設定されており、スレーブレコーダーのID番号が「スレーブID:01~16」のいずれかに設定されている。

本機をマスターレコーダーにして、他のDX-TL5000を制御する場合について説明します。

本機のID番号を「マスタID:01」に設定します。他のDX-TL5000のID番号を「スレーブID:02」などに設定します。

以上の設定を行うと、前面のLCDディスプレイに「CASCADE MODE」が表示されます。以下は、本機を操作し、他のDX-TL5000の映像を見る方法についての操作です。

1 PTZボタンを2秒以上押す。

- 本機が、カスケードモードに切り換わります。
- スレーブレコーダーのLCDに、カスケードモードの状態が表示されます
カスケードモード(接続中)

```
2004-01-01 00:00:00  
CASCADE ON
```

カスケード待機モード

```
2004-01-01 00:00:00  
CASCADE MODE
```

2 1の操作後3秒以内に制御したいスレーブレコーダーのID番号に対応したカメラ番号ボタンを押す。

- 本機がカスケードモードに切り換わってから3秒以内に、カメラ番号ボタンを押して下さい。
- 選択されたレコーダーからの映像は、マスターレコーダーのVIDEO CASCADE OUT端子に接続されたモニターに表示されます。マスターレコーダーの前面部のボタンを使って、スレーブレコーダーのマルチプレクサ機能が操作できます。また、マスターレコーダーのPTZ操作で、スレーブレコーダーに接続されたカメラのPTZ操作をすることができます。
- 制御されているスレーブレコーダーのID番号は、マスターレコーダー前面部のLCDに表示されます。

```
2004-01-01 00:00:00  
CASCADE ID02
```

モニター画面にも表示されます。

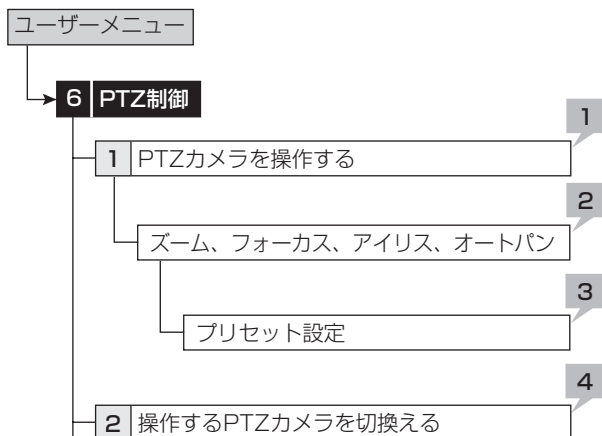
3 他のレコーダーを制御するときは、ステップ1、2を繰り返す。

- スレーブレコーダーの操作を中止するには、PTZボタンを2秒以上押して、マスターレコーダーに接続したカメラからの映像を再び表示させます。
- ➡ カスケードモード中は、スレーブレコーダーからの映像はマスターレコーダーのVIDEO CASCADE OUT端子に接続されたモニターに表示されます。
- ➡ オプションのキーボードDX-KB5を使用して、複数のレコーダーを操作することもできます。接続および操作方法は、本機の工事業者向け取扱説明書およびキーボードの取扱説明書をご覧ください。

カメラを制御する

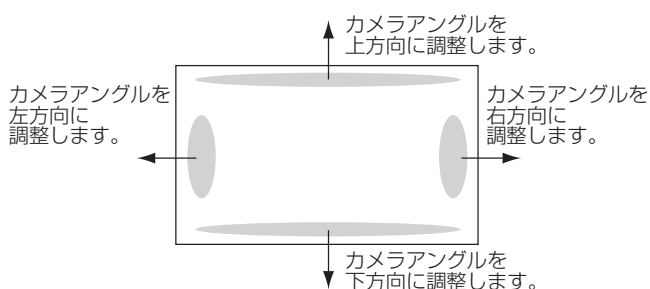
RS-232CやRS-422/485を使って、接続されたカメラを制御することができます。

■ メニューを使ってカメラを制御する(ユーザーメニュー→PTZ制御)



1 PTZカメラをパン、チルトする。

- ・ 灰色部分をマウスでクリックして、カメラの角度を調整します。



2 ズーム、アイリス、フォーカスを調整する。オートパンを実行する。

3 監視ポイントを1から16までの間で設定する。

- ・ オートパンのプリセット位置を、PTZカメラに登録することができます。

4 制御するカメラの番号を切り換える。

- ・ 制御するカメラの番号は本機前面のLCDに表示されます。

2004-01-01 00:00:00
PTZ CAM1

- ➡ <PTZ制御>は、マウスでのみ操作できます。本体ボタンでは操作できません。

■ 本体ボタン使ってカメラを制御する

1 制御するカメラ番号のボタンを押し、1画面の画像を表示させる。

2 PTZボタンを押す。

- ・ 本機がPTZモードに変わり、ボタンが点灯します。PTZモードの間、「PTZ」が前面のLCDに表示されます。

2004-01-01 00:00:00
PTZ

- ・ 制御するカメラの番号が前面のLCDに表示されます。

2004-01-01 00:00:00
PTZ CAM1

3 カメラの制御を行う。

チルト:チルト▲ボタンを押すと、カメラが上方向に傾きます。チルト▼ボタンを押すと、下方向に傾きます。

パン:シャトルを右に回すと、カメラが右方向にパンします。左に回すと左方向にパンします。

カメラズーム:カメラズームボタンを押してからジョグを左(広角)または右(望遠)に回すと、カメラズームが調整できます。

フォーカス:フォーカスボタンを押してからジョグを左(遠)または右(近)に回すと、フォーカスが調整できます。

アイリス:アイリスボタンを押してからジョグを左(閉じる)または右(開く)に回すと、アイリスが調整できます。

プリセット:プリセットボタンを押し、3秒以内にカメラ番号ボタンを押すと、監視ポイントをプリセットできます。16ポイントまで設定できます。

オートパン:オートパンボタンを押すと、カメラのオートパン機能が動作します。

- ❗ 本体ボタンでのPTZ操作中は、再生関連の機能や電源ボタンは使用できません。また、メニューを表示することもできません。

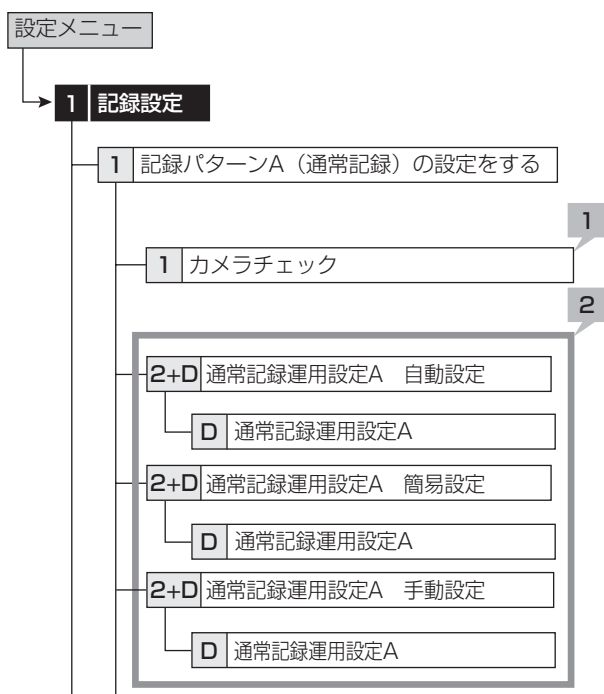
基本的なマニュアル記録をする

■ 基本的なマニュアル記録のしかた

ここでは、マニュアル操作による通常記録のしかたを説明します。

記録を始める前に、<メインデバイスの記録設定をする>(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする)で、レポート記録設定の確認が必要です。レポート記録設定を確認したあと、記録運用の設定を始めます。

- ❗ マニュアル記録の設定は、<記録パターンA(通常記録)の設定をする>(設定メニュー→記録設定→記録パターンA(通常記録)の設定をする)で行ってください。
- ❗ マニュアル記録で使用できるのは、<記録パターンA(通常記録)の設定をする>のみです。<記録パターンBの設定をする>～<記録パターンDの設定をする>は、タイマー記録運用でのみ使用できます。<記録パターンA(通常記録)の設定をする>は、タイマー記録運用でも使用できます。
- ❗ この設定は、マニュアル記録のための設定です。タイマー記録運用は、<タイマー設定>メニュー上(設定メニュー→タイマー設定)で設定する必要があります。



◆ 通常記録のための記録コマ数と記録画質を設定する

1 カメラチェックを行う。

- ・ 「実行」を選択すると、映像信号の入力のあるカメラ番号を自動的に検出します。ここでの設定は手順2の自動と簡易の両方に適用されます。

- ➡ カメラチェックを実施した場合、自動または簡易を使用して記録設定する場合は、画像のあるカメラのみ設定します。

2 記録設定方法とその詳細を設定する。

「自動」:運用周期と1日あたりの記録時間を設定して、自動的に記録画質と記録コマ数を設定します。希望の設定を選択して、「実行」を選択してください。

- ・ 「自動」設定が実行されると、プレビュー画面が自動的に表示されます。

「簡易」:全てのカメラ番号に、同じ通常記録のフレーム/フィールド記録、記録コマ数、画質を設定します。すべてのカメラ番号で通常記録コマ数が「---」に設定されていると、通常記録は行われません。希望の設定を選択して、「実行」を選択してください。

- ・ 「簡易」設定が実行されると、プレビュー画面が自動的に表示されます。

「手動」:それぞれのカメラ番号に、個別に通常記録のフレーム/フィールド記録、記録コマ数、画質を設定します。記録コマ数が「---」に設定されている場合、そのカメラ番号の記録は行われません。

- ・ 設定を確認するには、「確認」を選択して、プレビュー画面を表示してください。

- ➡ フレーム記録が設定されている場合、プレビュー画面の記録コマ数の表示が緑色に変わります。

- ➡ 記録コマ数の合計が240 pps以上になると、プレビュー画面の記録コマ数の表示が赤色に変わります。

<記録見積もり時間>について

- ・ 通常記録の記録コマ数、記録画質の設定によって連続で記録可能な時間が通常記録のプレビュー画面の下部に<記録見積もり時間>として表示されます。(アラーム記録の設定を変えても、時間は変わりません。)

- ・ パーティションを運用設定した場合、<記録見積もり時間>は、通常記録に記録可能な見積り時間の表示となります。

3 記録/記録停止ボタンを押す。

- ・ 記録/記録停止ボタンが点灯し、記録が始まります。

4 記録を停止するには、記録/記録停止ボタンを2秒以上押し続ける。

- ・ 記録が停止し、記録/記録停止ボタンが消灯します。

記録/記録停止



基本的な再生をする

■ 基本的な再生のしかた

記録されたデータを再生します。本機では、記録した映像をいろいろな方法で再生することができます。ここでは、もっとも一般的な再生のしかたを説明します。

1 本機前面部のドア内部の再生ボタンを押す。

- 再生が始まります。
- 電源を入れたあとは、記録された最も古い映像から再生が始まります。それ以外は、前回再生を停止させたところから再生を始めます。



- 「リピート再生」(システムメニュー→デバイス登録→再生の設定をする)が「切」に設定されている場合、HDDの物理的な終端または記録部分の終端にいくと、再生を停止します。「リピート再生」が「入」に設定されている場合は、記録されている映像データを繰り返し再生します。

【再生デバイスを変更する場合】

2-1 再生デバイスと再生エリアを<再生/検索デバイスの設定をする>(ユーザーメニュー→検索→再生/検索デバイスの設定をする)で選択する。

「メイン」:メインデバイスの記録内容を再生します。

「通常」:通常記録エリア

「アラーム」:アラーム記録エリア

「LPA」:ロングブリアラーム記録エリア

「コピー1」:コピー1デバイスの記録内容を再生します。

「シリアルバス」、「NAS」、「SCSI」、「DVD/CD」、

「USBメモリ」

「コピー2」:コピー2デバイスの記録内容を再生します。

「シリアルバス」、「NAS」、「SCSI」、「DVD/CD」

- 「アラーム」は、「アラーム記録エリア」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする→パーティション変更)が「0%」以外に設定されているとき表示されます。

- 「LPA」は、「ロングブリアラームエリア」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする→パーティション変更)が「0%」以外に設定されているとき表示されます。

2-2 再生ボタンを押す。

- 選択された再生デバイスのデータを再生します。

- 再生停止中に一時停止/終了点サーチボタンを押すと、最新の記録部分の終端付近で静止画再生となります。

3 再生を一時停止する場合は、一時停止ボタンを押す。

- 再生を開始する場合は、再び一時停止ボタンまたは再生ボタンを押してください。

4 再生をやめる場合は、再生停止ボタンを押す。

- 次に再生をするときは、前回再生を停止した位置から再生を始めます。

- 前面部の映像出力A/Bボタンを押すと、マルチプレクサ出力が切り換わります。出力Aが選択されると、ボタンが消灯します。出力Bを選択すると、ボタンが点灯し、再生に関連するボタンは、OUTPUT B端子に接続されたモニター画面の操作に使うことができます。もう一度映像出力A/Bボタンを押すと、マルチプレクサ出力は出力Aに切り換わります。

- 各カメラの再生速度は、記録条件により一定の速度にならない場合があります。

- 分割表示で再生した場合、記録したコマ数より再生コマ数が低くなる場合があります。

- 出力A、出力Bの両方で再生する場合、再生速度が遅くなる場合があります。

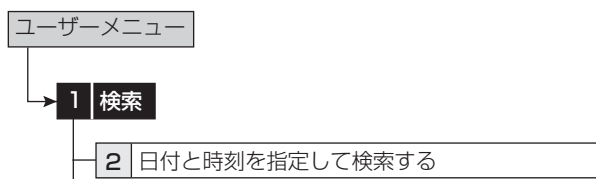
基本的な検索をする

■ 基本的なサーチのしかた

この機能では、見たい映像を頭出しすることができます。本機は、5種類のサーチ機能を備えています(日付と時刻を指定して検索する、アラームリストから検索をする、映像が記録されたデバイスを特定する、ブックマークから検索をする、動きを検出して検索をする)。ここでは、基本的なサーチ機能である、<日付と時刻を指定して検索する>と<アラームリストから検索をする>について説明します。

◆ 日付と時刻を指定して検索する

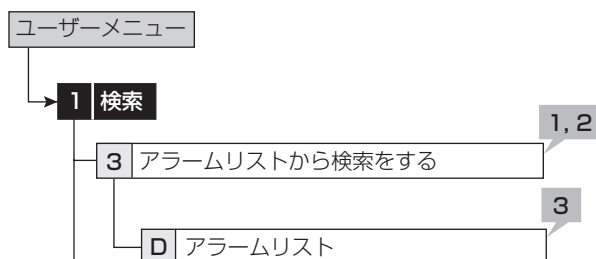
この方法では、日、時、分、秒、任意のカメラ番号を指定してサーチすることができます。サーチ結果は静止画で表示されます。1台のカメラ番号を指定してサーチした場合、結果は1画表示されます。2台以上のカメラ番号を指定してサーチした場合は、16分割表示されます。



- 1 サーチしたい日時を手動で設定する場合は、「**手動指定**」を選択して年、月、日、時、分、秒を設定する。
 - ・ 記録の開始点または終了点をサーチしたい場合は、「**開始指定**」または「**最新指定**」をそれぞれ選択する。
 - 2 カメラ番号を設定する。
 - 3 「**検索実行**」を選択する。
 - 4 サーチした映像を再生するには、再生ボタンまたは一時停止ボタンを押す。
 - 5 再生、静止画再生をやめる場合は、再生停止ボタンを押す。
- ❗ サーチするデバイスを変更するには、<再生/検索デバイスの設定をする>(ユーザーメニュー→検索→再生/検索デバイスの設定をする)で設定をしてください。
 - ❗ サーチ結果を16分割表示から希望するカメラ番号の映像を選んで1画表示させるには、希望するカメラ番号を押してください。見たい映像が1画表示されます。
 - ➡ 設定した時刻の記録がない場合、同じカメラ番号で設定した日時に一番近い時刻の映像を静止画再生します。
 - ➡ 同日同時刻のデータが複数箇所ある場合は、検索を複数回実行し、目的の画像を検索してください。
 - ➡ 記録の状態によっては、正しく検索できない場合があります。
 - ➡ 静止画再生中に1画面表示から分割表示、分割表示から1画面表示に変更すると、カメラによっては、近傍に映像が記録されていない場合や、静止画表示したタイミングにより映像が表示されない場合があります。

◆ アラームリストから検索をする

本機では、アラーム記録やエマージェンシー記録が始まると、アラームリストにアラーム記録やエマージェンシー記録の開始時刻を登録します。このアラームリストに登録されたアラーム記録(エマージェンシー記録)開始時刻の中から、希望する時刻をサーチすることができます。サーチ結果は静止画で1画表示されます。



1 <アラームリストから検索をする>でサーチしたい年、月、日、時、分、秒、センサー番号を設定する。

「最新の映像」:最新の記録時刻を日時に表示します。

2 「検索実行」を選択する。

- ➡ アラームリストの登録件数が多い場合には、アラームリストの表示完了まで時間がかかることがあります。
- ➡ アラームリストは、入力した日、時、分、秒以前に開始したアラーム記録のリストで、入力した日、時、分、秒に一番近いものを表示します。

3 表示したいアラームリストを選択する。

- ❗ サーチするデバイスを変更するには、<再生/検索デバイスの設定をする>(ユーザーメニュー→検索→再生/検索デバイスの設定をする)で設定をしてください。

「アラーム記録エリア」と「ロングプリアラームエリア」が設定されているときにアラームリスト検索を行う場合は、再生/検索エリアをそれぞれ「アラーム」、「LPA」に設定してください。

- ❗ 「センサー」表示は、アラーム信号が入力されたセンサー番号を表します。
- ❗ 「通常記録エリアのレポート記録」または「アラーム記録エリアのレポート記録」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする)が「切」に設定され、HDDの終端でアラーム記録(エマージェンシー記録)が入った場合、その記録はアラームリストに登録されない場合があります。
- ❗ アラームセンサー番号に対応していないカメラの映像をコピーで外部メディアに記録した場合は、本体と同様のアラームリストは構築できません。
- ➡ 動きの検出と後面のALARM IN端子の接地が同時に多数発生した場合、アラームリストにその開始時刻すべてを登録できない場合があります。その場合、一番若い番号のセンサーがアラームリストに登録されます。
- ➡ アラームリストのうち、後面部のALARM IN端子が接地された場合はオレンジ、動きを検出した場合は白、EMERGENCY端子が接地された場合は赤紫、通信経由でアラーム信号が入力された場合は緑で表示されます。
- ➡ アラームリストを消去するには、アラーム記録されたHDDのデータを消去してください。(システムメニュー→記録映像消去)
データ消去すると、映像データを含むHDD内のすべてのデータが消去されますのでご注意ください。

- ➡ インデックス信号がない場合、アラームリストサーチは行われません。
- ➡ <アラームリスト>を表示中にアラーム記録(エマージェンシー記録)が始まった場合、一度<アラームリスト>を終了して、再び表示させてください。新しいリストが追加されます。このとき、検索する日、時、分、秒の再設定が必要になる場合があります。
- ➡ LPAエリアのアラームリストサーチでは、「最新へ」を選択するとメディアの先頭、「最古へ」を選択すると、メディアの最後尾からのリストを表示します。

記録した映像をコピーする

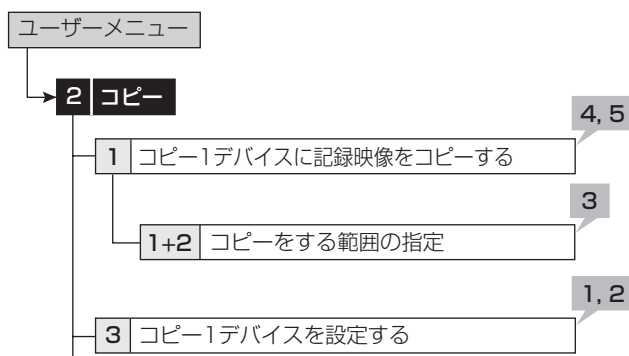
■ コピー(ユーザーメニュー→コピー)

メインデバイスからコピーデバイスにデータをコピーすることができます。

◆ コピー1デバイスに記録映像をコピーする／コピー1デバイスを設定する

開始点と終了点を指定して、データをコピー1デバイスにコピーすることができます。開始点と終了点は、ブックマークまたは日付と時刻で指定します。短い期間のデータをコピーするときに便利です。

- ❗ コピーを行う前に、コピー1デバイスの接続と、<HDDの追加／削除する>および<DVD/CDデバイスの追加／削除をする>(システムメニュー→デバイス登録)が正しく設定されていることを確認してください。



1 コピーするカメラ番号を設定する。

- ・ 「無し」を押すたびに、ボタン機能は「無し」と「全て」の間で切り換わります。全カメラの「入り」と「切り」を簡単に設定することができます。
- ・ 設定されたカメラ番号または日時に映像がない場合は、コピーされません。また、設定したコピー開始時間に、コピーしたいカメラ番号の画像が記録されていることを確認してください。

2 「詳細設定」を選択し、詳細の設定をする。

「元-> デバイス」:コピーするデータを含むデバイスを「メイン」、「コピー2」から選択します。

「元-> グループ」:コピーするデータを含むグループを選択します。メインの場合「通常」、「アラーム」、「LPA」から、コピー2の場合「シリアルバス」、「NAS」、「SCSI」、「DVD/CD」から選択します。

「->先 コピー1」:データコピー先のグループを「シリアルバス」、「NAS」、「SCSI」、「DVD/CD」、「USBメモリ」から設定します。

「コピーデータ」:コピーするデータを「アラーム」、「すべて」から設定します。

「上書き設定」:現在のデータに上書きするかどうかを選択します。

「自動イジェクト」:コピー完了後、メディアを自動的に取り出すかを選択します。

- ❗ 「元-> グループ」の「アラーム」は、「アラーム記録エリア」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする→パーティション変更)が「0%」以外に設定されているとき表示されます。
- ❗ 「元-> グループ」の「LPA」は、「ロングブリアラームエリア」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする→パーティション変更)が「0%」以外に設定されているとき表示されます。

- ❗ DVDを上書きコピーする場合、はじめにディスクのデータ消去を行います。データの消去には約30~40分かかります。また、データ消去中に消去を中止することはできませんので、ご注意ください。

- ❗ 「コピーデータ」を「アラーム」に設定してコピーする場合、コピーする範囲にアラーム記録のデータがないと、コピーの動作のみ行い、データは記録しません。CD/DVDへのコピーの場合は、管理情報のみ記録しますので、残量が少なくなります。アラーム記録データの有無が不明の場合は、<コピー1デバイスに記録映像をコピーする>で「テスト」を行うことをおすすめします。

3 コピーの開始点、開始/終了、終了点を、日付と時刻またはブックマークで設定する。

「開始点」:コピーの開始点のみを設定します。開始点から、コピー先メディアの残り容量に記録できるだけデータをコピーします。

「開始/終了」:コピーの開始点と終了点を設定します。

「終了点」:コピーの終了点のみを設定します。設定された時間を終了点として、コピー先メディアの残り容量に記録できるだけデータをコピーします。

- ・ ブックマークを使って開始点または終了点を設定するときは、「ブックマーク」を選択し、希望するブックマーク番号を選択してください。

- ・ 最も古いデータからコピーを開始する場合は、「記録開始点読込」を、最新のデータまでコピーする場合は、「記録終了点読込」を選択します。

4 「テスト」を選択して、コピーするデータの容量を計算する。

- ❗ 「終了点」を選択した場合、「テスト」を使ってコピーするデータの容量の計算が完了しないと、コピーを実行することができません。

- ❗ 「開始点」または「開始/終了」を選択した場合、「テスト」を使ってコピーするデータの容量を計算せずにコピーを実行すると、コピーする容量が特定できないため、コピーの進捗状況やコピー実施時間が正しく表示されないことがあります。

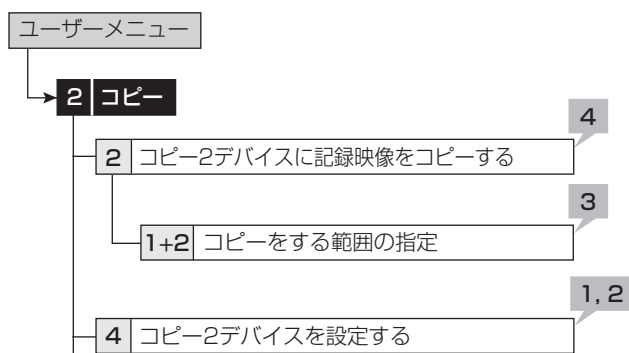
5 「コピー実行」を選択する。

- ・ コピーが始まります。
- ・ コピーを手動で停止させるときは、進捗画面の「コピー中止」を選択してください。停止前までのデータはコピーされています。

◆ コピー2デバイスに記録映像をコピーする／コピー2デバイスを設定する

開始点のみを指定して、データをコピー2デバイスにコピーするときを使用します。開始点は、日付と時刻またはブックマークで指定します。コピーは、手動で停止させない限り、データの終了点になるまで、またはコピー先のメディアがいっぱいになるまで行われます(「リPEAT書込み」を「停止」に設定している場合)。記録したデータのバックアップをとっておく場合に便利です。

- ❗ コピーを行う前に、コピー2デバイスの接続と、<HDDの追加／削除する>および<DVD/CDデバイスの追加／削除をする>(システムメニュー→デバイス登録)が正しく設定されていることを確認してください。



1 コピーするカメラ番号を設定する。

- ・ 「無し」を押すたびに、ボタン機能は「無し」と「全て」の間で切り換わります。全カメラの「入り」と「切り」を簡単に設定することができます。
- ・ 設定されたカメラ番号または日時に映像がない場合は、コピーされません。

2 「詳細設定」を選択し、詳細の設定をする。

「元-> メイン」: コピーするデータを含むエリアを「通常」、「アラーム」、「LPA」から選択します。

「->先 コピー-2」: データコピー先のグループを「シリアルバス」、「NAS」、「SCSI」、「DVD/CD」から設定します。

「コピーデータ」: コピーするデータを「アラーム」、「すべて」から設定します。

「上書き設定」: 現在のデータに上書きするかどうかを選択します。

「自動イジェクト」: コピー完了後、メディアを自動的に取り出すかを選択します。

「リポート書込み」: メディアの最初に戻ってコピーを繰り返すか、またはメディアがいっぱいになるまでコピーを実施し、終了点で停止するかを選択します。この設定は、コピー先がHDDまたはNASのときのみに有効です。

- ❗ 「元-> メイン」の「アラーム」は、「アラーム記録エリア」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする→パーティション変更)が「0%」以外に設定されているとき表示されます。
- ❗ 「元-> メイン」の「LPA」は、「ロングプリアラームエリア」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする→パーティション変更)が「0%」以外に設定されているとき表示されます。
- ❗ DVDを上書きコピーする場合は、はじめにディスクのデータ消去を行います。データの消去には約30～40分かかります。また、データ消去中に消去を中止することはできませんので、ご注意ください。
- ❗ 「コピーデータ」を「アラーム」に設定してコピーする場合、コピーする範囲にアラーム記録のデータがないと、コピーの動作のみ行い、データは記録しません。CD/DVDへのコピーの場合は、管理情報のみ記録しますので、残量が少なくなります。
- ❗ パーソナルコンピュータで使用されたディスクや、コピーに失敗したり停電でコピーが中断されたディスクは、誤動作の原因になりますので使用しないでください。

3 コピーの開始点を設定する。

「開始点」: コピーの開始点を設定します。

「続きから」: 前回のコピーの終了点からコピーを開始します。

- ・ ブックマークを使って開始点を設定するときは、「ブックマーク」を選択し、希望するブックマーク番号を選択してください。
- ・ 最も古いデータからコピーを開始する場合は、「記録開始点読込」を選択します。

4 「コピー実行」を選択する。

- ・ コピーが始まります。
- ・ 手でコピーを停止させるときは、<コピー2デバイスに記録映像をコピーする>の画面の「コピー中止」を選択してください。停止前までのデータはコピーされています。

- ❗ コピー先がHDDで、「リポート書込み」が「停止」に設定されているときに、コピーされた範囲がメディアの有効容量を超えると、警告表示があらわれます。この場合、コピーの範囲を狭く設定し直すか、容量の大きいコピーデバイスを設定してください。
- ❗ 記録中にコピーを行うと、記録画像の開始点と終了点が記録されないことがあります。
- ❗ コピー中のメインデバイスの記録データが上書き間近または上書きされると、コピー動作は停止します。DVDへの上書きコピー等、時間のかかるコピーの場合ご注意ください。
- ➡ コピー2では、コピーのプログレスバーは表示されません。
- ➡ 画像データは2MB単位で管理されています。コピー時は、指定範囲から2MB単位でデータがコピーされます。

■ 本機からビデオテープにコピーする

アナログビデオ記録装置を使用して、データをビデオテープにコピーすることができます。データは、本機が記録中でもコピーすることができます。アナログビデオ記録装置の録画操作については、ご使用になるアナログビデオ記録装置の取扱説明書をごらんください。

1 [アナログビデオ記録装置]記録の準備をする。

- ・ 必ず、入力切替を本機を接続している外部入力にしてください。

2 [本機]記録する画面の種類(1画/分割)を選択する。

3 [本機]検索機能を使って、コピーを開始したい場面を頭出しする。

4 [アナログビデオ記録装置]録画を始める。

5 [本機]再生ボタンを押して、再生を始める。

6 コピーをやめる場合は、[本機]の再生停止ボタンを押して、再生を停止させたあと、[アナログビデオ記録装置]の録画を停止する。

- ❗ ビデオテープには、画面に表示されている映像のみがコピーされます。

記録した映像をコピーする(つづき)

■ 再生ソフトウェア

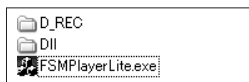
本機でCD/DVD/USBメモリに映像をコピーすると、その映像をパーソナルコンピュータで再生するためのソフトウェアがデータと共に自動的にコピーされます。再生ソフトウェアの使用方法は、以下のとおりです。

◆ 動作環境

- OS: Microsoft Windows 2000または Windows XP
- CPU: Intel Pentiumシリーズの500MHz以上のCPUを搭載したIBM PC/AT互換機
- RAM: 256 MB以上
- HDD: 200 MB以上のシステムドライブ空き容量
- 表示デバイス: XGA(1024pixel X 768pixel)以上

◆ アプリケーションの起動

- 1 コピーに使用したCD/DVD/USBメモリを、パーソナルコンピュータにセットする。
- 2 ディスクのアイコンをダブルクリックして開く。

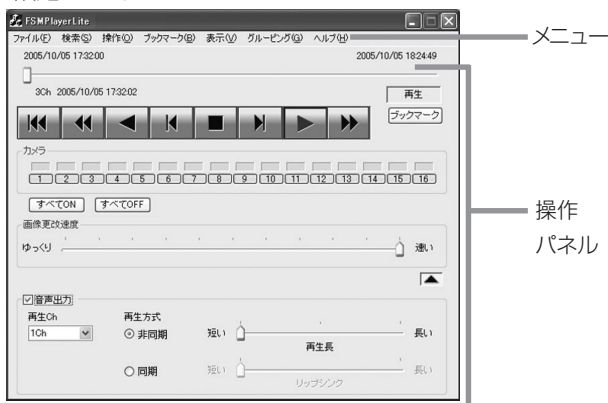


3 アプリケーションを起動する。

- ・ 「FSM Player Lite.exe」をダブルクリックすると、アプリケーションが起動し、操作パネルが表示されます。

画像が読み込めない場合は、ファイルメニューのフォルダコマンドで、再生したい画像フォルダを選択してください。

- FSMPlayerパネルはパネル右側の▼ボタンをクリックすると4段階に展開することができます。第1段階では各種再生、検索動作およびブックマーク操作をします。第2段階では表示カメラウィンドウの選択をします。第3段階では再生速度の調節(遅くする方向のみ)をします。第4段階では音声再生関連の設定をします。



◆ 操作パネル

⏮ 先頭へ

現在のメディアの記録部分の先頭へ移動します。

⏪ 巻戻し

逆方向に高速再生します。逆再生中(×1)に押すと、押すたびに速度が×2 → ×4 → ×8 → ×1 → … となります。

⏩ 逆再生

逆方向に再生します。

⏮ コマ戻し

1コマ戻して停止します。

■ 停止

再生を停止します。音声コマンドがオンのときは、停止後に音声を再生します。

⏮ コマ送り

1コマ送って停止します。

▶ 再生

順方向に再生します。

▶▶ 早送り

順方向に高速再生します。再生中(×1)に押すと、押すたびに速度が×2 → ×4 → ×8 → ×1 → … となります。

1 ~ 16 カメラ

(早送りボタン右下の▼ボタンをクリックすると、表示されます。)表示カメラを指定します。表示されているカメラは緑色、表示されていないカメラは黒色で表示されます。緑色でも、データが記録されていない場合は、画像は表示されません。

画像更改速度スライダー

(カメラ番号ボタン右下の▼ボタンをクリックすると、表示されます。)マウスでドラッグすることにより、画像データの再生速度を調整することができます。[速い]に設定すると、ご使用中のパーソナルコンピュータの性能によっては動作に支障をきたすことがあります。各パーソナルコンピュータに適切な画像再生速度を見極めてご使用ください。

追記したデータを再生する場合、画像更改速度スライダーがリニアに変化しない場合があります。

音声出力

(画像更改速度スライダー右下の▼ボタンをクリックすると、表示されます。)

【非同期再生】

[音声出力]にチェックマークを入れ、[再生Ch]をドロップダウンメニューから選択し、再生方式を[非同期]にします。再生を行い、音声を聞きたい場所で停止させます。停止したデータ部分の前後の音声が再生されます。再生する音声の長さは右側のスライダーで3段階に変更することができます。この時の音声実再生時間は記録画像のフレームレートによって異なりますので、再生データごとに適宜調整してご使用下さい。

【同期再生】

再生方式を[同期]にして再生してください。ブロック単位で通信ダウンロードしたデータや、レコーダーでコピーした音声付きのデータを音声と映像を同時に再生することができます。この時表示できる画像chは1画面だけに限定されます。また通常再生以外の特殊再生モード(早送り、逆再生など)では音声は再生されません。リップシンクのスライダーは、ご使用になるPCおよび再生するデータの記録状態に合わせて調整が必要です。なお、音と映像がうまく一致する調整位置が存在しないこともあります。

- ❗ 同期音声再生を行う時は画像更新がPCの処理能力に応じて間引きされます。画像優先の再生を行いたいときは「非同期」を選択して下さい。

- ❗ この展開パネルでの設定は次回起動時に引き継がれます。
- ❗ 音声の再生chと画像の表示chは関連づけられていません。それぞれ自由な組み合わせで再生できます。

- ❗ CD・DVDなどの読み出しが遅いドライブから直接再生をおこなっている場合は音声が途切れる場合があります。データをHDDなどにコピーしてから再生をおこなって下さい。

◆ ファイルメニュー

一括変換

停止中にクリックすると、「一括変換」画面が表示されます。日時範囲とカメラ番号を指定して、[JPEG]または[AVI]ボタンを押すと、画像データを一括変換して保存します。一括変換には、十分なメモリと一時ファイル用のハードディスク容量（システムパーティションおよび保存ドライブ）を必要とします。ご使用の環境により限界はさまざまですので、数秒程度の小さなファイル変換から始めて、状況を確認しながら行ってください。

◆ 検索メニュー

検索

クリックすると、「時刻検索」画面が表示されます。「時刻検索」の各テキストボックスに、検索したい日付と時刻を入力し、「検索」ボタンをクリックすると、指定した日時以降で最も近い画像を表示します。追記などにより記録内容の時刻情報が前後すると、検索が使用できない場合があります。

◆ 操作メニュー

再生、停止、逆再生、早送り、巻戻し、コマ送り、コマ戻し、先頭へについては、操作パネルの項目を参照してください。

◆ ブックマークメニュー

A-, B-

クリックすると、現在の位置を、AB間リピートのA点、B点として登録します。

AB間をリピート

チェックマークをつけると、ブックマークA、Bコマンドで指定したA点、B点間をリピート再生します。

◆ 表示メニュー

表示サイズ

クリックすると、[100%]、[75%]、[50%]、[25%]のサブメニューが表示されます。それぞれ、映像を指定の倍率で表示します。

デコードレベル

クリックすると、[細かい]、[中]、[粗い]のサブメニューが表示されます。デコードレベルを粗くすると、画像が粗くなり、再生の更新速度が上がります。

タイトルバー

クリックすると、[日付]、[アラーム]のサブメニューが表示されます。チェックマークをつけると、選択された項目が画面上に表示されます。

◆ グルーピングメニュー

グルーピングパターン

クリックすると、「グルーピングパターン」画面が表示されます。[4画]、[6画]、[9画]、[10画]、[13画]、[16画]をクリックすると、選択した分割画面が表示されます。各画面に表示させるカメラの位置を設定するには、[設定]をクリックし、設定画面を表示させてください。

◆ 右クリックで表示されるメニュー

以下の操作をしたい画面上で右クリックしてください。クリックした画像のみに以下の操作が行われます。

再生中

画像サイズ

表示メニューの項目を参照してください。

デコードレベル

表示メニューの項目を参照してください。

停止中

コピー

クリックすると、現在表示中の画像をクリップボードにコピーします。

名前をつけて保存

クリックすると、「名前をつけて保存」画面が表示されます。現在表示中の画像をWindowsビットマップファイル(.bmp)またはJPEGファイル(.jpg)として保存します。

画像サイズ

表示メニューの項目を参照してください。

デコードレベル

表示メニューの項目を参照してください。

印刷

クリックすると、「印刷」画面が表示されます。[余白]や[プリンタの設定...]などを設定後、[印刷]ボタンをクリックすると、表示している画像をプリンタで印刷します。

❗ フレーム記録された画像データを再生すると、輪郭がギザギザに見える場合があります。その場合は、画像サイズを大きくしてご覧ください。

❗ 画像データが多い場合は、再生ソフトウェアの起動に時間がかかることがあります。

Webブラウザによる通信

■ Webブラウザによる通信

本機に接続されているカメラのライブ画像や記録済み画像を、パーソナルコンピュータのWebブラウザにより取得できます。また、本機の設定の一部を、パーソナルコンピュータから行うことができます。

❗ Microsoft®、Windows®は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。(Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。)その他、記載の会社名および製品名は、各社の登録商標または商標です。なお、本文中では“®”は明記していません。

- ・ Windows 98SEは、Microsoft Windows 98 Second Edition の略称として表記しています。
- ・ Windows 2000は、Microsoft Windows 2000 Professional の略称として表記しています。
- ・ Windows Meは、Microsoft Windows Millennium Edition の略称として表記しています。
- ・ Windows XPは、Microsoft Windows XP Home Edition/Professional の略称として表記しています。

◆ パーソナルコンピュータの動作環境

OS

Microsoft Windows 98SE、Windows 2000、Windows Me、またはWindows XP

CPU

Intel Pentiumシリーズの500MHz以上のCPUを搭載したIBM PC/AT互換機

RAM

256MB以上

HDD

200MB以上のシステムドライブ空き容量

Webブラウザソフト

Microsoft Internet Explorer 5.5以上

表示デバイス

XGA(1024pixel x 768pixel)以上

- ❗ 動作環境は、すべての環境で動作を保証するものではありません。
- ❗ Web機能はパーソナルコンピュータの周辺ドライバとの相性により、ごくまれに正常に動作しないことがあります。このようなときは、最新のInternet Explorerにバージョンアップして再びお試しください。

◆ 接続について

- ・ 本機とパーソナルコンピュータ(以下、PC)を直接つなぐ場合はクロスケーブルを、HUBを介して繋ぐ場合はストレートケーブルを使用してください。
- ・ PC側のWeb設定をする場合は、PCの取扱説明書をご覧ください。

■ ログイン

Microsoft Internet Explorerを立上げて、ログインします。

1 Microsoft Internet Explorer を立上げ、アドレス欄にレコーダーのIPアドレスを入力する。

- ・ 「[ログイン]」画面が表示されます。



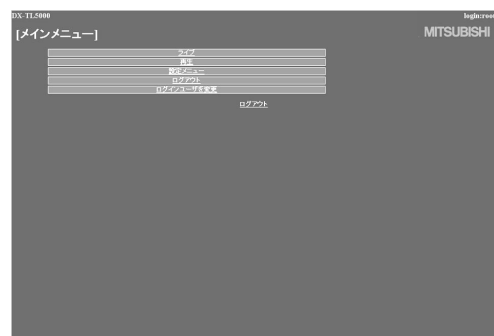
2-1 (ログインする場合は・・・)

「利用者ID」、「パスワード」を入力する。工場出荷状態では、全権ユーザーとして利用者IDが「root」、パスワードが「admin000」と、ライブユーザーとして利用者IDが「guest」、パスワードが「guest」として設定されています。

- ❗ 同じ利用者ID、パスワードで同時に複数人のログインが可能です。
- ❗ 権限によっては制約があります。同時に接続できる最大ユーザー数は10名です。

2-2 「ログイン」を選択し、左クリックまたはENTERを押す。

- ・ 「[メインメニュー]」画面が表示されます。



3-1 (利用者ID、パスワードを入力間違いした場合は・・・)

- ・「[注意]」画面が表示されます。

3-2 「ログイン」を選択し、左クリック、またはENTERを押す。

- ・「[ログイン]」画面が表示されます。

3-3 ステップ2-1に従い、正しい「利用者ID」、「パスワード」を入力する。

4-1 (ログインしない場合は・・・)

「ログインしない場合はこのメッセージをクリックしてログアウトしてください。」を選択し、左クリックする。

4-2 「セッションIDをレコーダーとブラウザから削除しました。ブラウザを閉じてください。」が表示されます。Webブラウザを終了してください。

5-1 (パスワードを変更する場合は・・・)

「[ログイン]」画面では、パスワードの変更権限を持っているユーザーのみ、パスワードを変更することができます。画面指示に従い、現在の「利用者ID」、「パスワード」を入力する。

5-2 「新しいパスワード」、「新しいパスワード(再入力)」に新しいパスワードを入力する。

- ❗ パスワードは、登録できる文字数が大文字小文字を区別したアルファベット、および数字で16文字までです。スペースは使用できません。

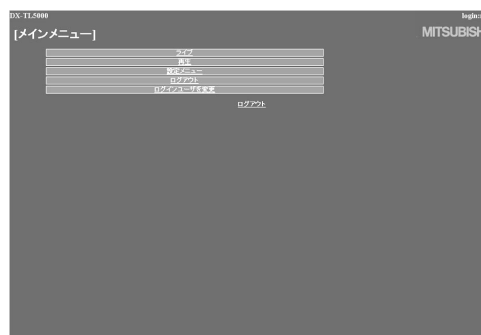
5-3 新しいパスワードに変更する場合は「変更」を選択し、左クリック またはENTERを押す。やめる場合は、「クリア」を選択し、左クリックまたはENTERを押す。

■ メインメニュー

この画面では、ライブ画像を取得し表示する「ライブ」、記録済み画像を取得し再生する「再生」、レコーダーの一部の設定を行う「設定メニュー」、作業を終了するための「ログアウト」、またはログインユーザーの変更を行う「ログインユーザを変更」を「メインメニュー」から選択します。

- ❗ ユーザーの権限によっては、選択できないメニューがあります。
- ❗ 通信時の転送レートは、通信環境および本機の負荷状況により一定ではありません。安定した通信を行うため、使用状態に応じた適正な画像転送速度でご使用ください。
- ❗ ユーザーのセッションID(接続情報)は、画像取得を含む最後の通信から5分で失われます。クライアントPCからのデータ要求が5分以上途絶えた場合、それ以降の操作ができませんので、Webブラウザを一旦終了して再びログインしなおしてください。
- ❗ 本機のMAINスイッチがOFFのときは、ライブ・記録画像を取得できません。

1 希望するメニューを「メインメニュー」から選択し、左クリックする。



Webブラウザによる通信(つづき)

◆ ライブ

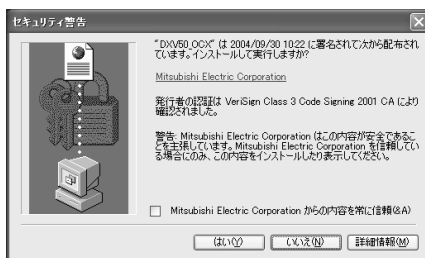
ライブ画像を取得し、PC画面上に画像を表示します。

1 「ライブ」を選択し、左クリックする。

- ・ 「[ライブ]」画面が表示されます。



- ❗ PCのWebブラウザによりはじめて画像を取得しようとした場合、下図のようなメッセージが表示されます。“はい(Y)”をクリックしてください。



- ❗ 本機がフルレート(240 pps)で記録している時に、記録されていないカメラの映像は、更新されません。

<<機能説明>>

停止

画像の取得をやめます。

ライブ

画像の取得を開始(再開)します。

画面内表示

カメラ番号の表示・非表示を選択します。

画面レイアウト

12種類の表示パターンを選択します。(初期設定は「4(1-4)」)

表示カメラ

表示させたいカメラ番号を選択し、チェックします。

画像転送速度

画像取り込み速度を「ゆっくり」～「速い」の5段階で選択します。(初期設定は中央)

レイアウト保存

画面表示のレイアウトを「PC」へ登録します。

【メインメニュー】

「[メインメニュー]」画面へ戻ります。

【ログアウト】

ログアウトします。

- ❗ 「画像転送速度」を「速い」に設定すると、ご使用中のPCの性能によっては動作に支障をきたすことがあります。各PCに適切な画像取得速度を見極めてご使用ください。
- ❗ ネットワークの容量や負荷状況によっては、転送レートが上がらない場合があります。
- ❗ フレーム記録設定しているカメラの画像をライブ表示すると、画像が縦ゆれすることがあります。

◆ 再生

レコーダーの記録済み画像を取得し、再生、サーチを行います。

1 「再生」を選択し、左クリックする。

- ・「[再生]」画面が表示されます。



2 ▶ボタンを押すと、再生を始める。

<<機能説明>>

- ▶ 押すと、再生を始めます。
- ▶▶ 押すと、x2、x4、x8、x16の順方向スピードサーチを始めます。
- ▶ 押すと、順方向のコマ送り再生になります。
- ◀ 押すと、逆再生を始めます。
- ◀◀ 押すと、x2、x4、x8、x16の逆方向スピードサーチを始めます。
- ◀ 押すと、逆方向のコマ送り再生になります。

- 再生中、サーチ中に押すと、静止画再生になります。

再生デバイス

再生、サーチをするHDDを選択します。（初期設定は「ノーマル」）

- ➡ 「画像情報」には取得した画像の日時、カメラ番号を表示します。「画像保存」をクリックすると静止画表示した画像をビットマップ形式でPCへ保存できます。

- ➡ 1画面表示のときは、以下のような検索ができます。



- ❗ 記録画像データの各種検索は、「再生」画面で1画面表示を選択し、再生停止中にできます。画像再生中はこの機能は動作しません、はじめに再生を停止させてください。

● 時刻検索

日時を選択し、「検索」をクリックしてください。

● アラームリスト検索

「アラーム検索」をクリックすると、「アラームリスト検索」画面が子画面で表示されます。



1 希望する日時と取得したいアラームリスト項目を設定し、「更新」をクリックする。

- ・「更新」をクリックしないとアラームリストは取得できません。
- ・取得したいアラームリストの件数を「取得アラーム数」に入力します。記録状態によっては、「取得アラーム数」の数値を大きくすると、取得までに時間がかかったり、希望する件数を取得できないことがあります。

2 希望する「番号」を選択し、「検索」をクリックする。

- ・「前(数字)件」をクリックすると逆方向のサーチを、「次(数字)件」をクリックすると順方向のサーチを行います。

「更新」をもう一度クリックすると、「アラームリスト」を再取得し、「閉じる」をクリックすると「アラームリスト検索」画面を隠します。

センサー：アラームリスト項目を取得したいセンサー番号にチェックを入れてください。

● 画像検索

▲をクリックすると、次のアラームリスト項目の画像が表示されます。

▼をクリックすると、前のアラームリスト項目の画像が表示されます。

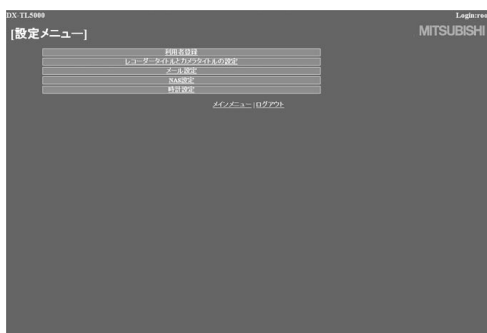
Webブラウザによる通信(つづき)

◆ 設定メニュー

レコーダーの一部の設定をします。

1 「[メインメニュー]」画面の「設定メニュー」を選択し、左クリックする。

- ・ 「[設定メニュー]」画面が表示されます。



2 希望する「設定メニュー」を選択し、左クリックする。

● 利用者登録

この画面では、登録済み利用者の権限に関する設定変更や、登録削除を行います。また、新規利用者の登録も行うことができます。

1 「利用者登録」を選択し、左クリックする。

- ・ 「[利用者登録]」画面が表示されます。



2-1 (登録済み利用者の設定を変更する場合は・・・)

「利用者の設定変更」設定で、設定変更する利用者IDを選択する。

- ・ 変更したい項目を選択してください。

<<権限について>>

ライブ

ライブ画像を取得できます。登録される必須ランクです。

再生

記録画像を取得できます。

オールカメラ

すべてのカメラの画像を取得できます。(カメラ表示設定で、表示を「切」に設定したカメラの映像も取得できます。)

パスワード変更

ユーザーのパスワードを変更できます。

設定

ユーザー登録情報を閲覧、編集できます。

- ❗ ユーザーの権限によっては、選択できない項目があります。
- ❗ 「設定」権限は、1人のユーザーにしか行使できません。先にログインしたユーザーがログアウトして権限を解放するまで、他のユーザーは「設定」権限を持たないユーザーとしてログインすることになります。
- ❗ 「再生」権限は、1人のユーザーにしか行使できません。先にログインしたユーザーがログアウトして権限を解放するまでは、他は「再生」権限を持たないユーザーとしてログインすることになります。

2-2 (設定を変更する場合は・・・)

「変更」を選択し、左クリックする。

- ・ 「[利用者設定変更確認]」画面が表示されます。

2-3 変更する場合は「変更」、やめる場合は「キャンセル」を左クリックする。

2-4 (「変更」を選択した場合は・・・)

「[完了]」画面で、「利用者登録」を左クリックする。

- ・ 「[利用者登録]」画面に戻ります。

2-5 (「キャンセル」を選択した場合は・・・)

- ・ 「[利用者登録]」画面に戻ります。

3-1 (登録済みユーザーを削除する場合は・・・)

「利用者の設定変更」で削除したい利用者IDの「削除」を左クリックする。

- ・ 「[利用者削除確認]」画面が表示されます。

3-2 削除する場合は「削除」、やめる場合は「キャンセル」を左クリックする。

3-3 (「削除」を選択した場合は・・・)

「[完了]」画面で、「利用者登録」を左クリックする。

- ・ 「[利用者登録]」画面に戻ります。

3-4 (「キャンセル」を選択した場合は・・・)

- ・ 「[利用者登録]」画面に戻ります。

4-1 (新規利用者を登録する場合は・・・)

「利用者の追加」で新規利用者IDと新規パスワードを入力する。

4-2 ステップ2-1を参考にして希望する「権限」を選択し、チェックを入れる。

- ❗ 同名の利用者IDは、登録できません。パスワードは、登録できる文字数が大文字小文字を区別したアルファベット、および数字で16文字までです。スペースは使用できません。

4-3 新規登録する場合は「登録」、やめる場合は「クリア」を左クリックする。

4-4 (「登録」を選択した場合は・・・)

- ・ 「利用者の設定変更」に追記されます。

4-5 (「クリア」を選択した場合は・・・)

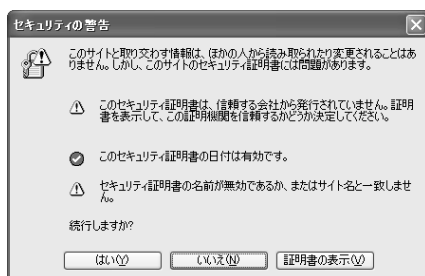
- ・ 設定した内容が消去されます。

5-1 (「接続方式の設定」を変更する場合は・・・)

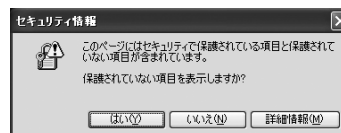
「接続方式の設定」の中の、変更したい項目を選択する。

- ・ Webアクセス時のSSL使用:
暗号化機能(SSL)のレベルを設定します。
「SSLを使用しない」：暗号化機能を使用しません。
「メニューのみ」：メニューにのみ暗号化機能を使用します。
「メニューと画像」：メニュー及び映像に暗号化機能を使用します。
- ・ SSLポート番号:
SSL通信で使用するポート番号を設定します。
- ・ 帯域制御:
通信のバンド幅を制御します。

- ❗ SSLでの通信を選択すると、下のようなメッセージが表示されます。「はい」を選択して、続きを行ってください。



- ❗ SSLレベルを「メニューのみ」に設定している場合、ライブ、再生のページを開く際に下のようなメッセージが表示されます。「はい」を選択してページを開いてください。この場合、ブラウザの暗号化通信を表す鍵型アイコンは表示されなくなりますが、実際には暗号化されて通信を行っています。



- 5-2 「新しい設定」に希望する設定を入力して、「変更」を左クリックする。

Webブラウザによる通信(つづき)

● レコーダータイトルとカメラタイトルの設定

この画面では、レコーダーやカメラのタイトルを設定または変更することができます。

1 「レコーダータイトルとカメラタイトルの設定」を選択し、左クリックする。

- ・「[レコーダータイトルとカメラタイトルの設定]」画面が表示されます。



2 「新しい設定」に、希望するタイトルを入力する。

- ・現在設定されているレコーダーまたはカメラタイトルは、「現在の設定」に表示されます。

3 「変更」を選択し、左クリックする。

● メール設定

この画面では、メールを送信するためのメールサーバーまたは発信者に関連する情報の設定と、受信者のメールアドレスの設定を行います。

1 「メール設定」を選択し、左クリックする。

- ・「[メール設定]」画面が表示されます。



2 (メール送信のための設定をする場合は・・・)

「SMTPサーバー」、「POPサーバー」、「POP利用者ID」、「POP利用者パスワード」、「DNSサーバー1アドレス」、「DNSサーバー2アドレス」、「From:」、「レコーダID」に希望する設定を入力する。

- ・現在の設定は、「現在の設定」に表示されます。

3 テストメールを送信するには、「Fromアドレスのテスト(テストメール送信)」を選択し、左クリックする。

4.1 (受信者のアドレスを設定する場合は・・・)

「新しい設定」に希望するアドレスを入力する。

4.2レコーダーからPCへ送信する内容を設定する。

- ・「残量」、「高温/ファン停止」、「再起動」、「通常記録」、「アラーム記録」、「センサー入力」を設定することができます。

4.3 設定したメールアドレスを有効にするかを選択する。

- ・「有効・無効」の欄にチェックマークを入れると、選択されたメールアドレスが有効になります。

4.4 「設定」を選択し、左クリックする。

4.5 「送信」を選択し、テストメールを送信する。

- ❗ e-mail発報やIP発報の頻度が高いとレコーダーの動作が不安定になることがありますのでご注意ください。

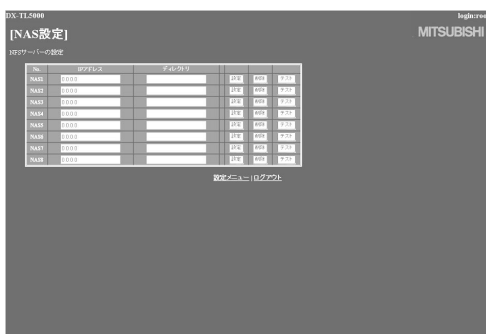
● NAS設定

この画面では、NASサーバーを接続するための情報の設定と、NASサーバーのマウント・アンマウントを行います。

❗ 設定前にNASの情報を確認してください。

1 「NAS設定」を選択し、左クリックする。

- ・「[NAS設定]」画面が表示されます。



2 「IPアドレス」、「ディレクトリ」に希望する設定を入力する。

3 「設定」を選択し、左クリックする。

4 (NASサーバーをアンマウントする場合は・・・)

「削除」を選択し、左クリックする。

5 (NASサーバーのマウントテストを行う場合は・・・)

「テスト」を選択し、左クリックする。

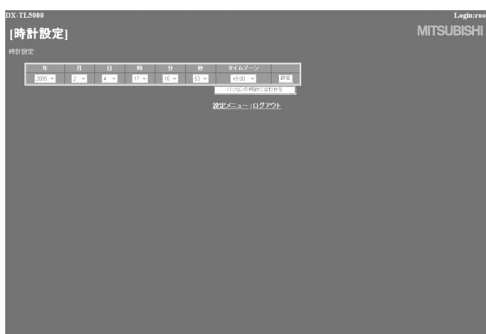
❗ レコーダーがコピー1、コピー2、リストアなどの動作を行っている場合、NAS設定を操作することができません。レコーダーのそれらの動作を止めてから、NAS設定を操作してください。

● 時計設定

この画面では、PCからレコーダーの時刻を設定します。

1 「時計設定」を選択し、左クリックする。

- ・「[時計設定]」画面が表示されます。



2-1 現在の「年」、「月」、「日」、「時」、「分」、「秒」、「タイムゾーン」を入力する。

2-2 「設定」を選択し、左クリックする。

3 (「パソコンの時計に合わせる」を使って時刻設定をする場合は・・・)

レコーダーの時刻設定を、PCの時刻と同期させる場合は、「パソコンの時計に合わせる」を選択し、左クリックする。

- ・レコーダーの時刻設定が、PCの時刻設定と同じ時刻に設定されます。
- ・年/月/日超え、時/分超えなどのタイミングで操作するときは、設定後に再確認が必要です。

◆ ログアウト

この画面が表示されると、正しく「ログアウト」できたこととなります。

1 「ログアウト」を選択し、左クリックする。

- ・「[ログアウト]」画面が表示されます。



2 Webブラウザを終了します。

❗ 正しくログアウトの操作をせずにブラウザを終了した場合、ユーザーのセッションIDが5分間保持されてしまいます。5分以内に同じ利用者IDでログインしようとする、操作制限がかかることがあります。

◆ ログインユーザーを変更

この画面では、ログインしているユーザーの変更を行ないます。

1 「ログインユーザーを変更」を選択し、左クリックする。

- ・「[ログイン]」画面が表示されます。



2-1 (ログインしているユーザーを変更する場合は・・・)

「ログイン(ログインユーザーの変更):」設定で「 ログイン」のステップ2-1、2-2を実行し、ログインしているユーザーを変更する。

- ・ログインしているユーザーが変更され、「[メインメニュー]」画面が表示されます。

2-2 (ユーザーを変更しないでログインする場合は・・・)

ブラウザの「戻る」を選択し、左クリックする。

2-3 (ログアウトする場合は・・・)

「ログインしない場合はこのメッセージをクリックしてログアウトしてください。」を選択し、左クリックする。

「故障かな」と思う前に

下記の内容をお調べになったあと、それでも不都合がある場合は、使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてからお買い上げの販売店にご連絡ください。

こんな症状が出たら		ここをお調べください
設 置	本機の電源が入らない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源プラグがコンセントからはずれていませんか? ● ロックインジケータが点灯していませんか? ● タイマーインジケータが点灯していませんか? ● 後面部のMAINスイッチが「OFF」になっていませんか?
	電源が入っているのに動かない。	<ul style="list-style-type: none"> ● ロックインジケータが点灯していませんか? ● 電源インジケータが点滅していませんか? 点滅中は、操作を受け付けません。 ● 安全装置がはたらいている可能性があります。後面部のRESETボタンをボールペンなどで押してから、電源を入れなおしてください。
	モニターに映像が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ● モニターやカメラが正しく接続されていますか? ● 選択されたカメラ番号にカメラ信号が入力されていますか? 16分割表示にして、確認してください。
	モニターの映像が不鮮明である。	<ul style="list-style-type: none"> ● 接続コードの接続不良はありませんか? ● カメラのピントは正しく調整されていますか?
記 録	記録ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 「通常記録エリアのリポート記録」、「アラーム記録エリアのリポート記録」、「ロングプリアラームエリアのリポート記録」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする)が、「切」に設定されていませんか? ● 記録は、設定した記録コマ数の時間が経過したあとに始まります。設定した記録コマ数の時間以内に、停止させませんでしたか?
	記録を停止することができない。	<ul style="list-style-type: none"> ● ロックインジケータが点灯していませんか? ● 通常記録、アラーム記録、エマージェンシー記録の記録中は、記録/記録停止ボタンを2秒以上連続で押してください。 ● タイマー記録の記録中ではありませんか? タイマー記録を解除したいときは、もう一度タイマーボタンを2秒以上連続で押してください。
	リポート記録ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 「通常記録エリアのリポート記録」、「アラーム記録エリアのリポート記録」、「ロングプリアラームエリアのリポート記録」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする)を、「入」に設定していますか?
	タイマー記録ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 日付・現在時刻は正確に設定しましたか? ● 記録開始時刻、終了時刻、記録コマ数を正しく設定しましたか? ● 「通常記録エリアのリポート記録」、「アラーム記録エリアのリポート記録」、「ロングプリアラームエリアのリポート記録」(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする)が、「切」に設定されていませんか?
	アラーム記録ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ● アラーム記録のコマ数が「---」に設定されていませんか? ● 記録容量が無くなっていませんか? ● タイマー記録の待機中ではありませんか? (タイマーインジケータが点灯していませんか?) ● 外部のセンサーなどが正しく接続されていますか?
再 生	再生ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ● ロックインジケータが点灯していませんか? ● データが消去されていませんか? ● 再生デバイスの選択は合っていますか?

	こんな症状が出たら	ここをお調べください
外部記録機器	コピー機器/バックアップ機器の操作ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ● メディアが正しく挿入されていますか？ ● 本機がメディアを認識動作中ではないですか？ ● 再生デバイスの選択は合っていますか？ ● メディアがライトプロテクトされていませんか？ ● 外部記録機器の電源は入っていますか？ ● 外部記録機器のターミネーションは正しく設定されていますか？(SCSIデバイスのみ) ● コピーデバイスが<HDDの追加/削除する>または<DVD/CDデバイスの追加/削除をする>(システムメニュー→デバイス登録)に登録されていますか？
	本機を通してカメラが制御できない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 制御するカメラは正しく接続されていますか？ ● <PTZ設定>は正しく設定されていますか？
その他の	動き検知機能が働かない。	<ul style="list-style-type: none"> ● アラーム記録の画面で動き検知機能を働かせたいカメラ番号のアラーム入力が「端子」になっていませんか？ ● 記録コマ数設定画面で動き検知機能を働かせたいカメラ番号のアラーム記録コマ数が「---」になっていませんか？ ● <動き検知設定>画面の「記録開始ドット数」の数値が「検知エリア」の数値より大きくなっていませんか？ ● 検知エリアは正しく設定されていますか？
	パーソナルコンピュータで制御できない。	<ul style="list-style-type: none"> ● <通信設定>メニューは正しく設定されていますか？ ● 正しく接続されていますか？ ● 接続ケーブルに接続不良はありませんか？ ● 接続ケーブルの種類は合っていますか？
	分割表示のときに、青の画面が表示されるカメラ番号がある。	<ul style="list-style-type: none"> ● 運用設定をしていても、映像信号の入力がないカメラ番号の画面は、青で表示されます。
	ボタン操作ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源インジケータが点滅していませんか？ 点滅中は、操作を受け付けません。 ● ロックインジケータが点灯していませんか？
	カメラ番号ボタンでカメラの切り換え操作ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ● メニュー画面が表示されていませんか？ メニュー画面を表示中は、カメラ番号ボタンは使用できません。
	メニューの設定ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 出力Bが選択されていませんか？ 出力Bが選択されているときは、マウスのカーソルは表示されますが、メニューは表示されず、設定できません。メニューは、出力Aが選択されているときのみ設定することができます。

警告表示とCALL OUT信号の出力

警告表示とその対処法

※1 CALL OUT信号の出力について

選択: メニュー画面でCALL OUT信号の出力の入/切が設定できる。

共通: メニュー画面の設定にかかわらず、CALL OUT端子からCALL OUT信号を出力する。

なし: CALL OUT信号は出力しないが、画面上に警告表示をする。

画面表示に「注意」が表示されているときにヘルプボタンを押すと、警告表示が表示されます。「注意」の内容は、過去16件のみ保存し、表示させることができます。それ以前の内容は消去され、CALL OUT信号の出力は解除されます。CALL OUT信号の出力は、前面部のEボタンを押すか、「警告消去」をクリックすることによりとめることができます。

警告表示	対処	警告表示の解除方法	コード	CALL OUT信号の出力 ※1
メインデバイスの通常記録エリアの残量が**%以下になりました※2	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じてコピーを行う。 	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。	LOG1200	選択
メインデバイスのアラーム記録エリアの残量が**%以下になりました※2			LOG1201	
メインデバイスのロングブリアラームの残量が**%以下になりました※2			LOG1202	
コピー2の残量が**%以下になりました※2			LOG7200	
メインデバイスの通常記録エリアの残量が0%になりました	<ul style="list-style-type: none"> 警告を解除することにより、最も古い記録の部分から上書き記録に移行する。 必要に応じてコピーを行う。 	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。	LOG1100※3	選択
メインデバイスのアラーム記録エリアの残量が0%になりました			LOG4100※4	なし
メインデバイスのロングブリアラームの残量が0%になりました			LOG1101※3	選択
コピー1の残量が0%になりました	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて新しいメディアと交換する。 	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。	LOG4101※4	なし
コピー2の残量が0%になりました			LOG1102	選択
コピーサイズエラー	<ul style="list-style-type: none"> コピー/リストアする範囲を再設定する。 新しいメディアと交換する。 	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。	LOG3100	なし
コピー元のデータ範囲がコピーメディアの空き容量を確認してください。			LOG7100	選択
コピーサイズエラー			LOG3701※5	なし
コピー範囲がコピーメディアの空き容量を確認してください。			LOG4701※4	
コピーメディアエラー	<ul style="list-style-type: none"> 記録機器のメディアを確認する。(メディアが入っていないときは、メディアを挿入する。) メディアのライトプロテクトがかかっていないか確認する。かかっていたら、解除する。 外部記録機器、本機共に電源を切ったのち、外部記録機器、本機の順で再起動する。 外部記録機器、本機共に電源を切ったのち、ケーブル、ターミネーター(SCSIデバイスのみ)の確認を行う。 	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。	LOG3701※5	なし
コピーできません			LOG4702※4	
コピー機器・コピーメディアを確認してください			LOG7701※6	
コピーメディアエラー			LOG7702※6	
データコピーができません				
コピー機器を確認してください				
ディスクがありません	<ul style="list-style-type: none"> ディスクを挿入する。 	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。	LOG3703※5	なし
ディスクが挿入されていないか使用できません			LOG4703※4	
使用可能なディスクを挿入してください			LOG7703※6	
ディスクがありません				
ディスクが入っていないか使用できないディスクです				
使用可能なディスクに交換してください				
コピー1の残量が0%になりました	<ul style="list-style-type: none"> ディスクを交換する。 	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。	LOG3704※5	なし
ドライブに新しいディスクを挿入してください			LOG4704※4	
コピー2の残量が0%になりました			LOG7704※6	
ドライブに新しいディスクを挿入してください				

警告表示	対処	警告表示の解除方法	コード	CALL OUT 信号の出力 ※1
入力信号がありません カメラからの入力信号がありません カメラと信号ケーブルを確認してください	<ul style="list-style-type: none"> 本機とカメラが正しく接続されているか、電源が入っているか確認する。 カメラから所定の映像信号が出力されているか確認する。 映像信号の入力がないカメラを運用設定していないか確認する。 	記録を停止する。 映像信号を出力させる。 「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。	LOG54□□※7	共通
軽微なエラーが発生しましたが、そのまま使用できます	<ul style="list-style-type: none"> 異常がなければ、継続して使用する。 エラーが続く場合は、HDD、メディア、ケーブル、ターミネーションを確認し、再起動する。 	—	LOG13□□※8 LOG23□□※8 LOG33□□※8 LOG43□□※8 LOG73□□※8	なし
動作が不安定となった為システムを一時停止し記録を再開しました HDD***は切り離されました	再起動する。	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す	LOG14□□※8	共通
動作が不安定となった為システムを停止しました再度操作を開始してください			LOG24□□※8 LOG34□□※8 LOG44□□※8 LOG74□□※8	なし
改変データを検知しました	—	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す	LOG55□□※7	なし
デバイスに問題を検出しました	—	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す	LOG6200	共通
再起動しました、そのまま使用可能ですレコーダーの確認をしてください	本機の確認をする。	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す	LOG5100	共通
レコーダーが高温になっています換気を確認してください	電源を切り、設置状態を変える。	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す	LOG5200	共通
レコーダーが高温になっています動作を止めてください	電源を切り、設置状態を変える。	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す 温度を下げる。	LOG5201	共通
ファンが止まりました、確認してください	電源を切り、使用を中止する。	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す ファンを回転させる	LOG5300	共通
記録がコピー中のデータを上書きしましたコピーを中止しました	引き続きコピー/バックアップを行う場合は、HDD記録を停止する。	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す	LOG3500※5 LOG7500※6	なし
記録がコピー中のデータを上書きしようとしていますコピーを続けるならば、記録をとめてください	引き続きコピー/バックアップを行う場合は、HDD記録を停止する。 引き続きHDD記録を行う場合は、コピー/バックアップを停止する。	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す	LOG3600※5 LOG7600※6	なし
(なし)	ウォッチドック動作により再起動した。	—	LOG5101	—

※2：数値は、設定によって変わります。

※3：記録用のコード

※4：リストア用のコード

※5：コピー1用のコード

※6：コピー2用のコード

※7：(□□)には、下記の番号が入ります。)

01：CH 1 07：CH 7 13：CH 13

02：CH 2 08：CH 8 14：CH 14

03：CH 3 09：CH 9 15：CH 15

04：CH 4 10：CH 10 16：CH 16

05：CH 5 11：CH 11

06：CH 6 12：CH 12

※8：

14 □□：記録 24 □□：再生 34 □□：コピー1

44 □□：リストア 74 □□：コピー2

(□□)には、下記の番号が入ります。)

00：A (内蔵) 01：B (内蔵) 02：C (内蔵)

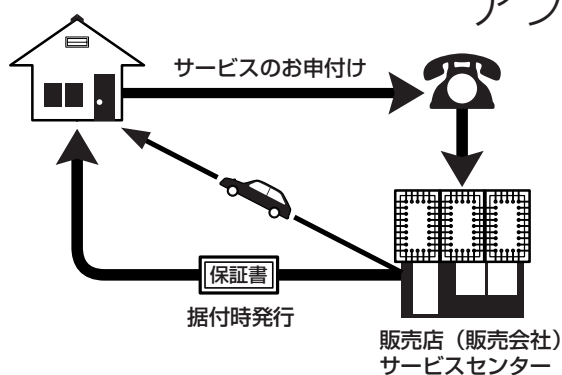
10～25：USB (外部) 30～35：SCSI (外部) 40～47：NAS (外部)

※LOG1400について：記録中に表示されます。一度システムを停止し、再度記録を開始します。(エラーとなったHDDは、自動的に記録デバイスの登録から削除されます。登録されているHDDの最後の1台まで記録を継続します。)

※LOG24～74について：コピー中・再生中に表示されます。一度システムを停止するため、再生・コピー動作は停止します。再度再生・コピーを行ってください。

※LOG54□□について：記録中に、記録しているカメラ画像の信号が2秒以上なくなった場合に表示されます。2秒以下の記録の場合は、表示されないことがあります。

アフターサービス



デジタルレコーダーを末長くご愛用いただくために、定期点検を受けられることをおすすめします。点検については販売店にご相談ください。

1. 保証書—内容のご確認と保存のお願い

必ず販売店名・保証期間をご確認のうえ、よくお読みになって、大切に保存してください。

2. 保証期間—1年

正常なご使用状態で、保証期間内に万一故障が生じた場合には、保証書記載事項に基づき販売店で修理いたします(消耗部品を除く)。保証期間内でも原則として有料にさせていただきます。詳細は、保証書記載事項をごらんください。

3. 修理を依頼される前に

この取扱説明書をよくお読みのうえ、「故障かな」と思う前にの項を点検していただき、なお異常のあるときは保証書をお示しのうえ、販売店にお申し出ください。

4. その他ご不明の点は

販売店にご相談ください。

本機は日本国内専用です。放送方式、電源電圧の異なる海外では使用できません。また、海外でのアフターサービスもできません。

This unit is designed for use in Japan only and can not be used in any other country. No servicing is available outside of Japan.

愛情点検

●長年ご使用のデジタルレコーダーの点検をぜひ！

(熱、湿気、ホコリなどの影響や、使用の度合により部品が劣化したり、ときには安全性を損なって事故につながることもあります。)



このような
症状は
ありませんか

- 電源コード、プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても、映像が出ない。
- その他の異常・故障がある。

ご使用
中 止

故障や事故防止のため、スイッチを切り、コンセントから電源プラグをはずして、必ず販売店にご相談ください。

デジタルレコーダーの補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。

ご購入店などをメモしておく、あとで役に立ちます。

形 名	DX-TL5000	お買上げの 販売店	
お買上げ日		(電話番号)	() -

三菱電機株式会社

京都製作所 〒617-8550 京都府長岡京市馬場岡所1番地



DX-TL5000

PRINTED IN MALAYSIA